

大学・専門学校における アクティブラーニング実施に関する調査報告書

eラーニング戦略研究所
eLearning Strategy Research Institute

株式会社デジタル・ナレッジ <https://www.digital-knowledge.co.jp/>

目次

1. 調査概要	3
2. まとめ	5
3. 調査結果のポイント	6
4. アンケート調査結果 GTグラフ	1 1
クロス表【学校別】	4 6
クロス表【学科分野別】	5 6
クロス表【地域別】	6 6
クロス表【効果の有無別】	7 6

1. 調査概要

調査概要

- 調査目的** : 大学・専門学校におけるアクティブラーニングの実施状況を調査する。
調査期間 : 2017年2月14日(火)～2月20日(月)
調査方法 : Webアンケート方式
調査地区 : 全国
調査対象 : アクティブラーニングを授業で実践している大学・専門学校の教員 計118名

調査項目

1. アクティブラーニングの導入範囲
2. 主に導入しているアクティブラーニングの手法
3. アクティブラーニングの具体的な実施手法
4. アクティブラーニングの導入目的
5. アクティブラーニング実施で使用・導入した設備・施設
6. アクティブラーニング導入に際し行った教員の指導力向上の取り組み
7. 導入後、効果を実感したり授業・学生の良い変化を感じたか
8. 効果を感じたアクティブラーニングの手法
9. どんな効果があったか
10. 効果が出た要因として考えられるもの
11. アクティブラーニングの課題
12. 今後のアクティブラーニングの実施方針

回答者属性

- 性別内訳** : 男性87名(73.7%)、女性31名(26.3%)
- 年代別内訳** : 40歳未満 21名(17.8%)、40代 35名(29.7%)、50代 39名(33.1%)、60歳以上 23名(19.5%)
- 所属学校内訳** : 大学(文系)32名(27.1%)、大学(理系)27名(22.9%)、大学(文・理系)43名(36.4%)、専門学校17名(14.4%)
- 学科系統内訳** : 人文科学 (文学・語学・史学・哲学等) 18名(15.3%)、社会科学 (法学・政治学・商学・経済学等) 27名(22.9%)、理学 9名(7.6%)、工学 13名(11.0%)、医学・薬学・看護学系 19名(16.1%)、教育系 18名(15.3%)、芸術系 8名(6.8%)、その他 6名(5.1%)
- 地域内訳** : 北海道10名(8.5%)、東北10名(8.5%)、関東39名(33.1%)、中部17名(14.4%)、関西15名(12.7%)、中国10名(8.5%)、四国3名(2.5%)、九州13名(11%)、沖縄1名(0.8%)

2. まとめ

eラーニング戦略研究所は2017年2月、アクティブラーニングを導入している大学と専門学校の教員118名を対象に、アクティブラーニングの実施状況についてアンケート調査を実施しました。

その結果、「学生の能動的な授業参加」を主目的としてアクティブラーニングを導入・実施している学校が多く、過半数の教員が「主体性が出てきた」「学習意欲が向上した」「社会人基礎力がつき就職内定率アップにつながった」等の効果や学生の変化を実感していることが明らかとなりました。

教員が効果を感じたアクティブラーニングの手法は、学校や学科、地域によって異なりましたが、全体としては「グループディスカッション」「学生参加型授業」「体験学習」「PBL(課題解決型学習)」への評価が高いようです。教員から一方的に教わるのではなく、多様な意見との触れ合いや体験による気づきのなかで学びへの興味関心を喚起させ、知識と実践を接続させる取り組みの様子が、アンケートから見えてきます。

一方で、「授業の準備が大変」「授業の進め方が難しい」「学習評価が難しい」など、アクティブラーニングの実施に課題を抱える教員が多いことも浮き彫りとなりました。しかしながら「今後も積極的に実施したい」「より高いアクティブラーニングの手法を活用していきたい」とする教員が9割近くとなり、アクティブラーニングに対する高い意欲と期待がわかる結果となっています。

体験学習やディスカッション、あるいは授業後のレポートなどは、従来の大学教育でも行われてきた手法でとくに目新しいものではありません。しかしながら、21世紀型の人材育成の必要性が叫ばれ、アクティブラーニングという概念が浸透しつつある今、「主体的な学びへの転換」を明確に意識した活動が各学校のさまざまな工夫や試行錯誤のもとで活発化している現状が今回のアンケートから浮かび上がってきます。ICTの普及もその流れを推進するひとつの要素といえるでしょう。国内におけるこうした取り組みはまだ始まったばかりですが、より組織的・体系的な実践や評価、評価に基づく改善が進むなかで大学教育や専門教育がさらに成熟したものになることが期待されます。

3. 調査結果のポイント

- 「グループディスカッション」「学生参加型授業」「体験学習」に手応え
- 学校、学科、地域によって異なる“アクティブラーニングの実践事例”

大学・専門学校で主に導入されているアクティブラーニングは、「学生参加型授業」61%、「グループディスカッション」48.3%、「PBL(課題解決型学習)」29.7%、「協調・協働学習」「体験学習」各27.1%。

次に効果を感じたアクティブラーニングの手法を尋ねたところ、「グループディスカッション」40%、「学生参加型授業」35%、「体験学習」25%、「PBL(課題解決型学習)」23.3%となり、主に実施されている手法とはやや異なる結果となった。

また、効果を感じたアクティブラーニングの手法は、学校や学科、地域によってばらつきが見られた。例えば、文系の大学では「グループディスカッション」、理系の大学では「学生参加型授業」、専門学校では「グループディスカッション」「体験学習」の評価が高かった。「グループディスカッション」や「体験学習」は教育系学科では効果が高いとされたが、理学系、工学系では評価が低かった。理学系では「学生参加型授業」の評価が高く、社会科学系では「調査学習」が効果的だったという結果が出ている。

具体的な実施内容は、「グループディスカッション」では理論を学習した後にグループで議論して理解を深めたり、ひとつの答えを導き出す活動がみられた。「PBL(課題解決型学習)」の一環として行っているという意見もあり、課題を与えてグループで議論・検討をさせるケースと、地域の問題は何か？など課題設定自体を学生に行わせ、意見を出し合いながら解決法を導くケースがみられた。「学生参加型授業」では授業毎にミニレポートやコメントシートによる質問を課し、次の授業でフィードバックや履修生全員への共有を行っているという例が多かった。「体験学習」では介護体験や救急実習、近隣の保育所との連携授業など学科分野にあわせた活動が展開されている。

■ アクティブラーニング導入の主目的は「能動的な授業参加」、文系と理系で違いも

アクティブラーニングの導入目的は「能動的な授業参加」が最多で84.7%、次いで「知識の定着・確認」55.1%、「社会人基礎力の習得」36.4%となった。

文系の大学や専門学校では「能動的な授業参加」が圧倒的に多かったが、理系の大学では「能動的な授業参加」に並び「知識の定着・確認」も同程度に重視されていた。

■ 8割以上が設備導入、アクティブラーニングをサポートするICTの存在

アクティブラーニングの実施にあたり、8割以上の教員がパソコンやタブレット、無線LAN、LMSやクリッカーなどを使用または導入したと回答した。例えば、前述した「学生参加型授業」などは従来から大学教育の一部で実施されてきたものであるが、ICTの普及により、学生からのレポートや質問の提出、教員側の集計作業や履修者全体への共有などが行い易くなっている側面があるものと推察される。

また、アクティブラーニング導入に際し、指導力向上のため何らかの取り組みを行った教員も7割近くに達することが分かった。とくに「アクティブラーニングは効果があった」と答えた教員の3人に2人は「教員向け研修・講演への参加」「教員間の授業参観や勉強会」「模擬授業」などの複数の取り組みを行っていた。

- 「主体性が出てきた」「学習意欲が向上」など過半数が効果を実感
- 学生が主体的に変化した“3つの要因”とは

アクティブラーニング導入で効果を実感したり授業や学生の良い変化を感じたかを尋ねたところ、「はい」は50.8%で「いいえ」はわずか4.2%だった。とくに理系大学や専門学校における効果が顕著であった。学科系統別にみると、理工学科、芸術系分野での効果が高く、とくに芸術系では「はい（効果を実感した）」が87.5%だった。

具体的な効果は、

「コミュニケーション能力の向上」「学習意識レベルが向上し、積極的な質問事項が増加した」
 「主体性が出てきた」「参加者の意見をよく聞き、生産的な意見を発表するようになった」
 「消極的な学生が減った」「知識の定着が良い」「社会への関心が高まった」
 「助け合って考えをまとめようとする」「生徒が自発的にものを分析するようになった」
 「自分とは異なる考え方で議論させることで幅広い考えを持つようになった」など様々。
 「社会人基礎力が付き内定率アップにつながった」という声も見られた。

効果が出た要因として考えられるものを自由回答で挙げてもらった。

もっとも多かったのは「受動的から能動的になった」「学生の取り組む意識の変化」など、学生の主体性に関するものだった。さらに学生が主体的に変化した要因として、

「多様性を尊重し他者と協働する姿勢」
「問題意識を持ち自ら考える習慣」
「実体験による学び」

の3つをキーワードとして挙げる教員が多かった。

また、「とにかく学生を信頼すること」「学生にすべてを任せ、教員はサポートと教育環境の準備に回る」など、教員側の意識転換こそがポイントだと分析する声もあった。

- 「授業の準備が大変」「授業の進め方が難しい」課題を抱えながらも
- 9割の教員が“アクティブラーニングの活用”に高い意欲

アクティブラーニングの課題を尋ねた結果、「特にない」はわずか8.5%であった。このことから多くの教員がアクティブラーニングの実施に対し課題を抱えていることがわかる。課題の内容は「授業の準備が大変」55.1%、「授業の進め方が難しい」42.4%、「学習評価が難しい」42.4%など。とくに理系大学の教員は他の教員に比べ、「授業の準備が大変」「授業の進め方が難しい」「学習評価が難しい」を課題と答えた割合が高かった。

最後に、今後のアクティブラーニングの実施方針を聞いた。

「これまでと同様に積極的に実施していきたい」50%、「より高いアクティブラーニングの手法を身に着け活用していきたい」36.4%となり、あわせて9割の教員がアクティブラーニングを今後も積極的に実施したいと回答した。とくに理系の大学教員の51.2%が「より高い手法を身に着け活用したい」と回答したことが注目される。理系大学の教員は重い課題を抱えながらも、アクティブラーニングをより積極的に活用したいと考えているようだ。以上の結果から、すでにアクティブラーニングを実践している大学教員・専門学校教員の多くは、様々な課題やジレンマを抱えながらも、アクティブラーニングの活用に関心が高いといえる。

5. アンケート調査結果

GTグラフ

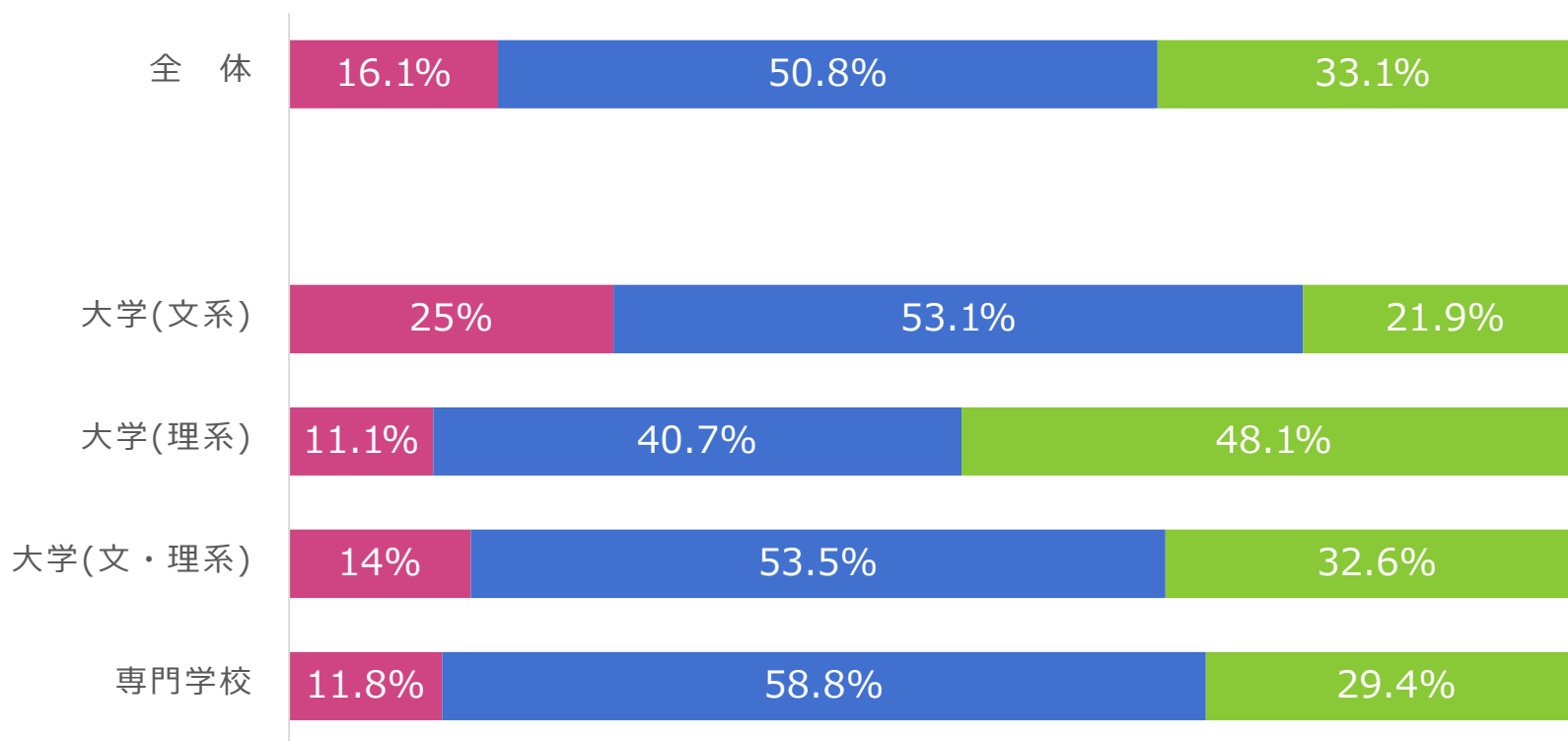
1. アクティブラーニングの導入範囲

(N=118)

Q.あなたの学校におけるアクティブラーニングの導入範囲を教えてください。

- 全校的に導入されている
- 部局や教員によって異なるが多くの授業で導入されている
- 導入は限定的で少ない

導入校の約7割で
アクティブラーニングが
積極的に活用されている

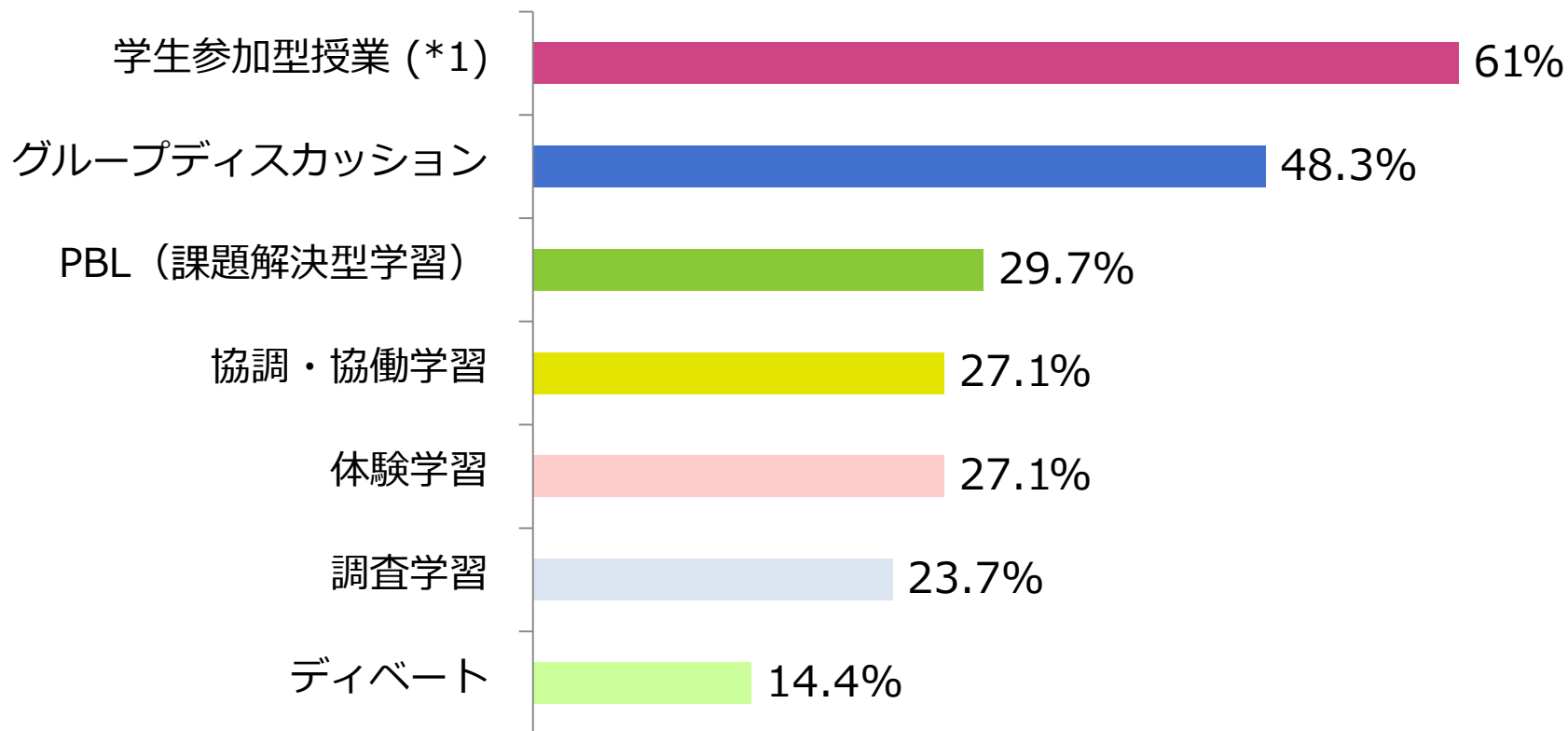


2. 主に導入しているアクティブラーニングの手法

(N=118)

Q.主にどのようなアクティブラーニングの手法を取り入れていますか？(複数回答可)

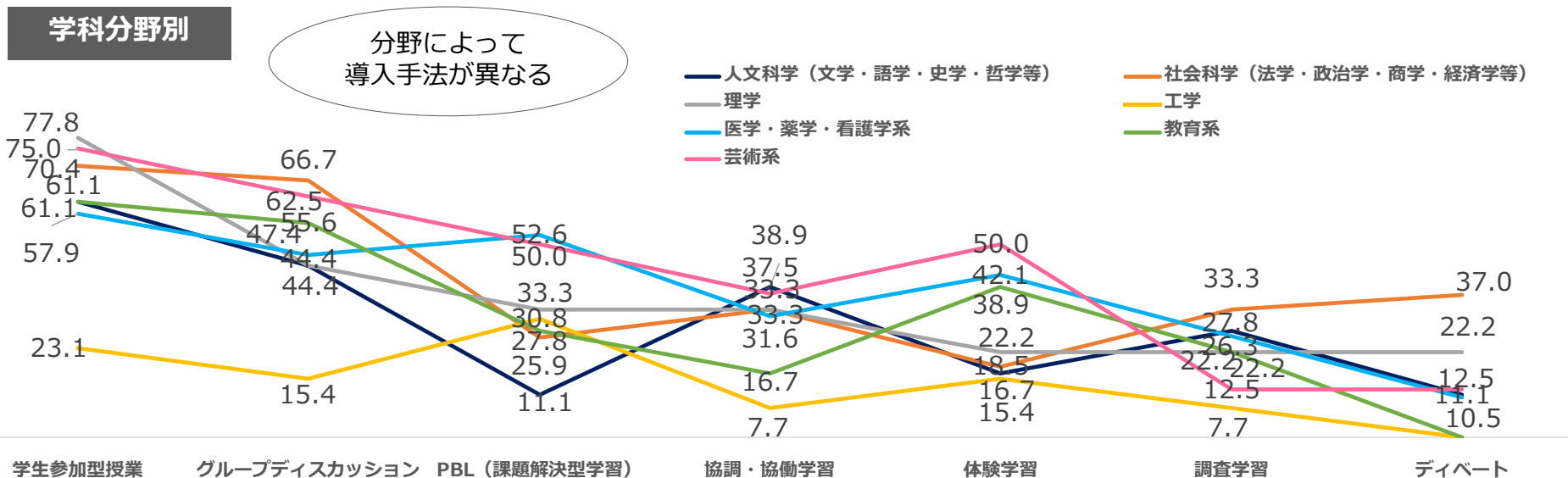
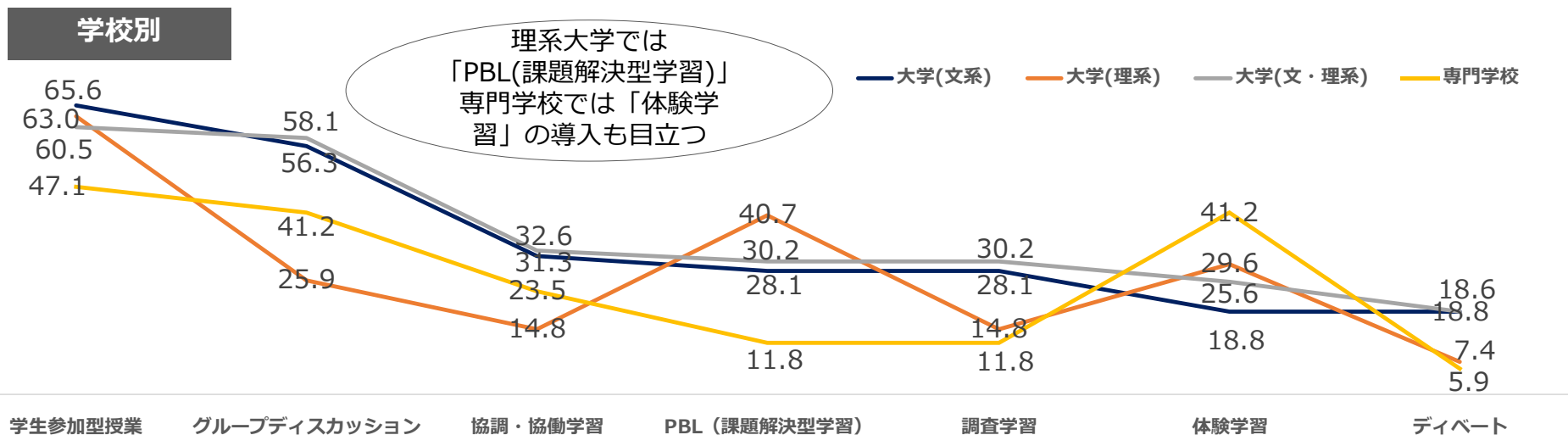
また、それぞれを授業のどのタイミングでどのように実施していますか？具体的な実践例をお答えください。



(*1)学生参加型授業……クリッカー、コメント・質問、ミニレポート等

2. 主に導入しているアクティブラーニングの手法

(N=118)



3. アクティブラーニングの具体的な実施手法

(N=118)

【学生参加型授業】

実施方法	回答者属性			
	性別	年齢	居住地域	職業
毎回の授業でミニレポートを提出	男性	63歳	東京都	大学教員
学生から毎時間コメントをもらい、次の時間にフィードバック	女性	37歳	長崎県	大学教員
コメントをもとに次の授業で議論	男性	52歳	愛知県	大学教員
講義の感想レポート	男性	45歳	北海道	大学教員
毎週コメント・質問を小レポートで受け、120人程度の履修生全員に回答を返している	男性	55歳	東京都	大学教員
講義の最後に小レポートを課す	女性	42歳	千葉県	大学教員
授業の終わりにミニレポート 翌週の授業で深める	男性	56歳	兵庫県	大学教員
質問用紙を利用し、毎時間質問に答える	男性	54歳	北海道	大学教員
コメントシートによる質問と次の授業での応答	男性	56歳	山口県	大学教員
学生自身が演習問題を出題する	男性	47歳	北海道	大学教員
毎時間のミニレポートとコメント	男性	53歳	北海道	大学教員
講義でミニレポートや対話式授業を行う	男性	41歳	東京都	大学教員
毎回授業後の気づきシート	女性	44歳	千葉県	大学教員
ミニレポートの提出後、全員の前で開示、その後議論。	男性	43歳	岡山県	大学教員
毎回の講義の最初と最後に質問、途中で問題をクリッカーを使って解答させている	男性	56歳	東京都	大学教員
毎回ミニレポートを書いてもらう	男性	61歳	東京都	大学教員
時々ミニツツペーパーを授業の終わりに記入	男性	45歳	福岡県	大学教員
テーマに即した発表者に対する質疑応答	男性	74歳	鹿児島県	大学教員
自主調査レポート	男性	42歳	香川県	専門学校教員
質疑応答	男性	60歳	千葉県	専門学校教員

(アンケートから一部抜粋)

3. アクティブラーニングの具体的な実施手法

(N=118)

【グループディスカッション】

実施方法	回答者属性			
	性別	年齢	居住地域	職業
毎回の授業で課題をディスカッション	男性	63歳	東京都	大学教員
与えられたテーマについて話し合う	男性	43歳	愛知県	大学教員
演習や課題、実習時におこなう	女性	43歳	大阪府	大学教員
テーマ設定を学生主体で行わせる	女性	52歳	北海道	大学教員
論題を示してグループ内で議論した上で全体で共有する	男性	52歳	愛知県	大学教員
グループでテーマを決めて学習	男性	53歳	群馬県	大学教員
一つの課題をグループで話し合いながら、一つの答えを導き出し発表する。	女性	57歳	佐賀県	大学教員
個別課題をグループ討論、発表	男性	51歳	千葉県	大学教員
対抗ゼミナールでディスカッション	男性	56歳	兵庫県	大学教員
理論を学習した後にグループで内容を議論する	女性	42歳	北海道	大学教員
英語討論	女性	36歳	神奈川県	大学教員
PBLの一部として	男性	56歳	山口県	大学教員
ジグソー法	男性	38歳	熊本県	大学教員
自分達で簡単な実験をし、その成果についてディスカッションする	男性	45歳	山梨県	大学教員
全学年にゼミ形式の授業を設けディスカッションする	男性	54歳	福井県	大学教員
テーマを与えてグループとしての見解を求める	男性	60歳	北海道	専門学校教員
演習問題を相談しながら解く	男性	46歳	香川県	専門学校教員
KJ法を取り入れたディスカッション	男性	59歳	宮城県	専門学校教員
テーマを各グループごとに検討し、発表	女性	51歳	島根県	専門学校教員

(アンケートから一部抜粋)

3. アクティブラーニングの具体的な実施手法

(N=118)

【PBL（課題解決型授業）】

実施方法	回答者属性			
	性別	年齢	居住地域	職業
1コマで最終日に問題の解決策をプレゼン	男性	63歳	東京都	大学教員
地域の課題を探り、解決策を提案する	男性	52歳	愛知県	大学教員
グループワークによるPBL	男性	53歳	山口県	大学教員
課題テーマを設定し、プログラミング	男性	32歳	三重県	大学教員
課題を与えてグループで解決	男性	53歳	静岡県	大学教員
症例問題を考える	男性	46歳	北海道	大学教員
問題を出し、机上で答えを教員が出すのではなく、学生なりに課題を考え答えを出し、みんなでお互いにアドバイスや意見を出し合いながら課題を解決していく。	女性	57歳	佐賀県	大学教員
シナリオに対して班単位で調査、課題設定、解決法の提案を行う	男性	56歳	山口県	大学教員
ある機能を有する装置を作成する	男性	38歳	神奈川県	大学教員
オンラインデータ実証分析	男性	58歳	兵庫県	大学教員
地域で抱えている問題をインタビューしてプレゼン	男性	32歳	秋田県	大学教員
テーマ設定によるレポート作成	男性	65歳	神奈川県	大学教員
多職種連携教育のうち、3年生を対象とした科目では、学科を超えたグループ毎に一人の模擬患者を用意して模擬カンファレンスを行っている。	男性	62歳	三重県	大学教員
課題のみ提案し、学生で議論・検討	男性	43歳	岡山県	大学教員
COC+における地域の問題解決型実習を2～4年生に導入	男性	54歳	福井県	大学教員
グループで課題解決方法をまとめ発表する	男性	60歳	岩手県	専門学校教員

(アンケートから一部抜粋)

3. アクティブラーニングの具体的な実施手法

(N=118)

【協調・協働学習】

実施方法	回答者属性			
	性別	年齢	居住地域	職業
一つのテーマをグループ単位で解決してゆく。	男性	61歳	沖縄県	大学教員
グループワークで英語の教科書の内容を各自でまずは理解させる。	女性	35歳	千葉県	大学教員
演習や実習でグループワークをする	女性	42歳	千葉県	大学教員
グループ学習、課題解決学習等、学生がお互いに課題に向かって学習する。	女性	57歳	佐賀県	大学教員
発表をグループ単位で行う	男性	56歳	兵庫県	大学教員
自分達で簡単な実験をし、その成果をまとめて発表する	男性	45歳	山梨県	大学教員
企業と参加学生が一体化した商品ブランド開発プロジェクト	男性	58歳	兵庫県	大学教員
グループごとによる発表	男性	52歳	大阪府	大学教員
トランプ使用、神経衰弱で単語を覚えるなど	女性	37歳	東京都	大学教員
多職種連携演習	男性	53歳	東京都	大学教員
グループ、班別共同学習	男性	65歳	神奈川県	大学教員
ロールプレイング	女性	68歳	東京都	大学教員
多職種連携教育を1年生から4年生まで実践している。	男性	62歳	三重県	大学教員
課題研究型グループワーク	女性	37歳	岡山県	大学教員
演習の授業ではグループワークを導入	男性	45歳	福岡県	大学教員
地域の課題を産官学連携事業で仕事として取り組み	男性	54歳	福井県	大学教員

(アンケートから一部抜粋)

3. アクティブラーニングの具体的な実施手法

(N=118)

【体験学習】

実施方法	回答者属性			
	性別	年齢	居住地域	職業
地域のイベントに参加	女性	37歳	長崎県	大学教員
海外企業インターンシップ	男性	58歳	兵庫県	大学教員
学生で作った物を、自ら販売しその成果を体験している。	男性	52歳	埼玉県	大学教員
実習・演習・見学授業が圧倒的主流	男性	54歳	福井県	大学教員
介護施設を併設しているので、必須科目の中にボランティア活動を含めている。	男性	62歳	三重県	大学教員
調査実習	男性	45歳	北海道	大学教員
実験実習	男性	42歳	大阪府	大学教員
臨床実習	女性	43歳	大阪府	大学教員
救急実習	女性	28歳	東京都	大学教員
介護体験	男性	56歳	東京都	大学教員
実工学体験	男性	55歳	東京都	大学教員
地域の活動に参加	女性	44歳	千葉県	大学教員
インターンシップ	男性	46歳	愛知県	大学教員
実際に子どもたちの前で実践	男性	60歳	北海道	専門学校教員
学校近隣の保育所との連携授業	男性	42歳	香川県	専門学校教員
実際に生徒役教師役として指導する授業をさせている	女性	38歳	滋賀県	専門学校教員

(アンケートから一部抜粋)

3. アクティブラーニングの具体的な実施手法

(N=118)

【調査学習】

実施方法	回答者属性			
	性別	年齢	居住地域	職業
フィールドワーク。留学生等へのインタビュー、祭やイベントの調査、商店街の取材等	男性	56歳	山口県	大学教員
博物館を使って沖縄の歴史を調査研究	男性	61歳	沖縄県	大学教員
地域の観光資源について地図の作成	男性	53歳	静岡県	大学教員
美術館・博物館での見学調査、フィールドワーク	女性	51歳	東京都	大学教員
古物や古文書の調査と報告	女性	50歳	千葉県	大学教員
テーマ設定後、グルイン、アンケート実施	男性	65歳	神奈川県	大学教員
資料から必要な情報をまとめる	男性	53歳	北海道	大学教員
多職種連携教育の1年生後期に行われるアカデミックフェアに向けて、学科の壁を越えた学生が自分たちが選んだテーマに関する調査を行う。	男性	62歳	三重県	大学教員
文献を調査し、まとめて発表	男性	37歳	宮城県	大学教員
ゼミではフィールドワークを含む調査をさせている	男性	45歳	福岡県	大学教員
リーフレット作成	女性	32歳	京都府	大学教員
地域共同学習で地域資源を発見	男性	54歳	福井県	大学教員
インタビュー調査	男性	59歳	宮城県	専門学校教員
学校近隣での実地調査	男性	42歳	香川県	専門学校教員

(アンケートから一部抜粋)

3. アクティブラーニングの具体的な実施手法

(N=118)

【ディベート】

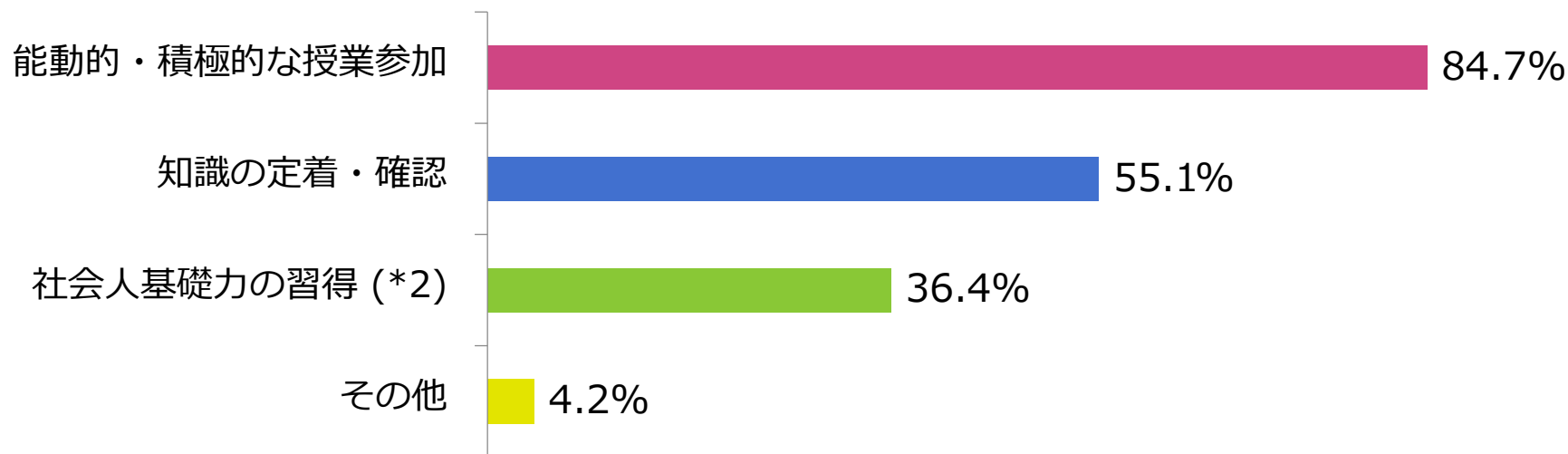
実施方法	回答者属性			
	性別	年齢	居住地域	職業
自分の考えとは反対の側で討論させる	女性	52歳	北海道	大学教員
対抗ゼミナールでディスカッション	男性	56歳	兵庫県	大学教員
競技ディベートに倣った構成	男性	56歳	山口県	大学教員
ゼミ対抗ディベート大会	男性	58歳	兵庫県	大学教員
卒業研究ゼミナール	男性	53歳	東京都	大学教員
部分的debate	女性	34歳	大阪府	大学教員
実習におけるプレゼンテーションと講評者とのディベート	男性	54歳	福井県	大学教員
演習問題を相談しながら解く	男性	46歳	香川県	専門学校教員

(アンケートから一部抜粋)

4. アクティブラーニングの導入目的

(N=118)

Q.アクティブラーニングを導入した目的をお答えください。(複数回答可)

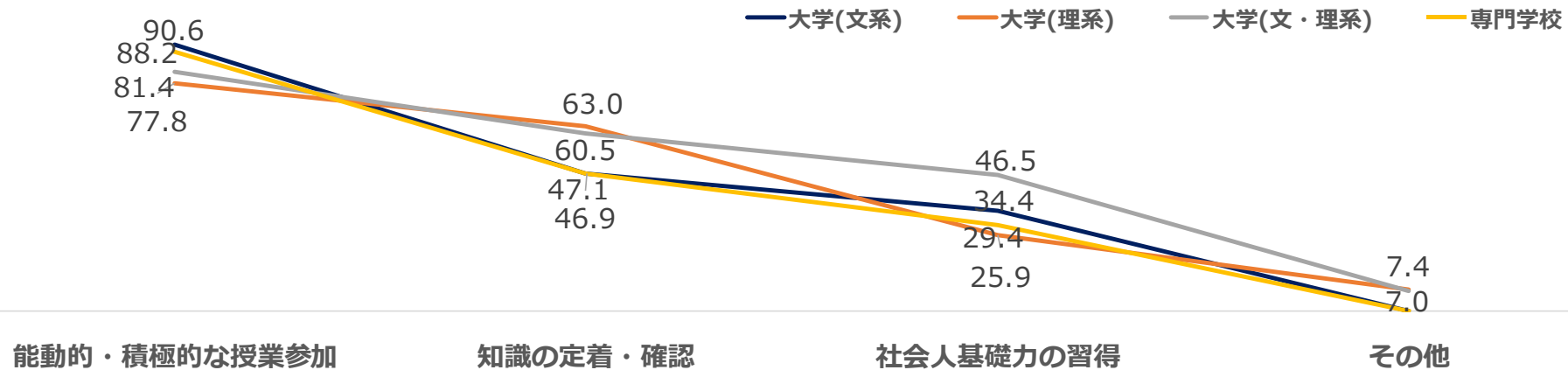


(*2)社会人基礎力……経済産業省によって「職場や地域社会で多様な人々と仕事をしていくために必要な基礎的な力」として定義されたもので「前に踏み出す力」「考え抜く力」「チームで働く力」の3つの能力から成る。さらに、前に踏み出す力は「主体性」「働きかけ力」「実行力」、考え抜く力は「課題発見力」「計画力」「創造力」、チームで働く力は「発信力」「傾聴力」「柔軟性」「状況把握力」「起立性」「ストレスコントロール力」の全12の能力要素より構成されている。

4. アクティブラーニングの導入目的

(N=118)

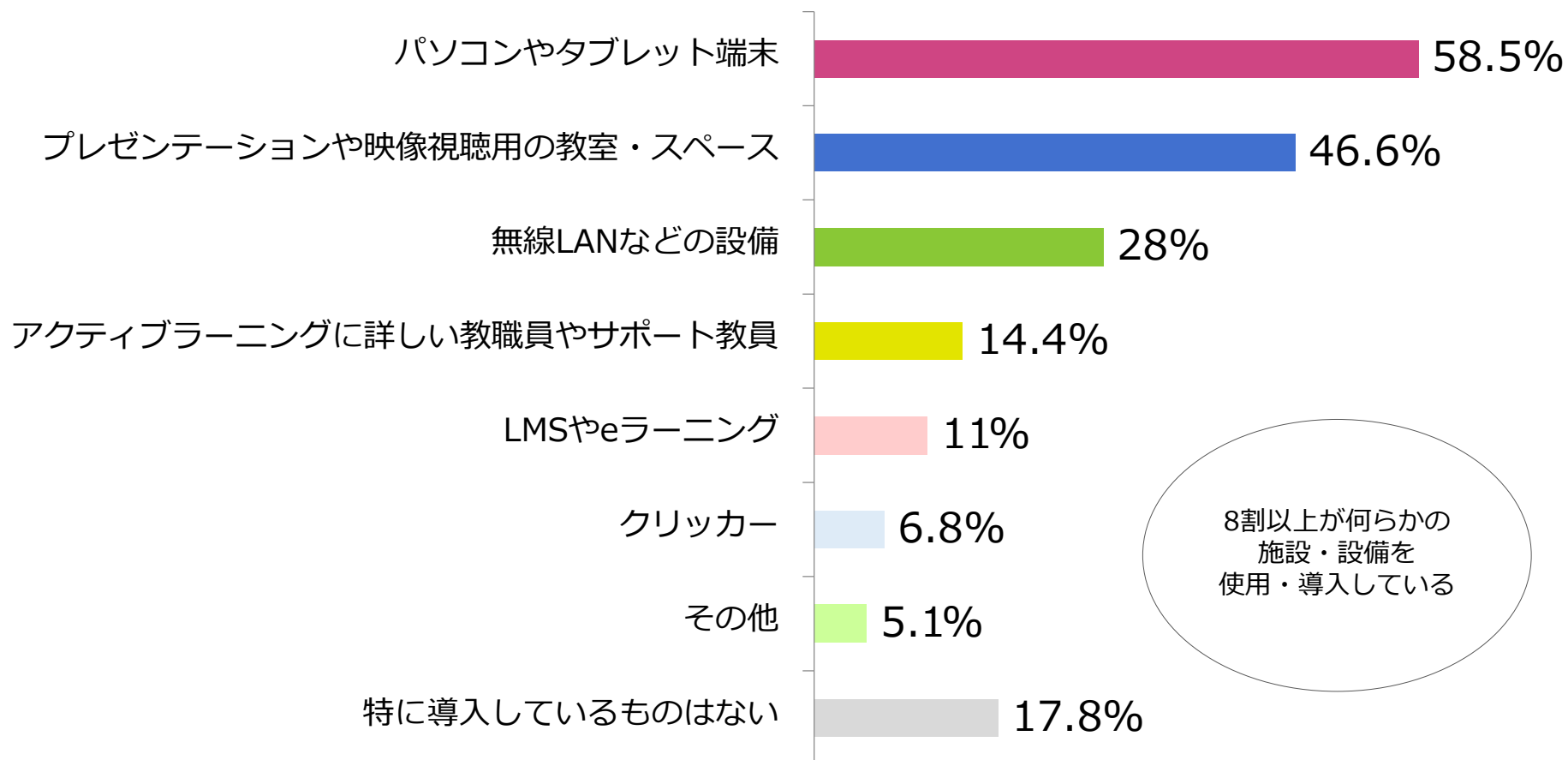
学校別



5. アクティブラーニング実施で使用・導入した施設・設備

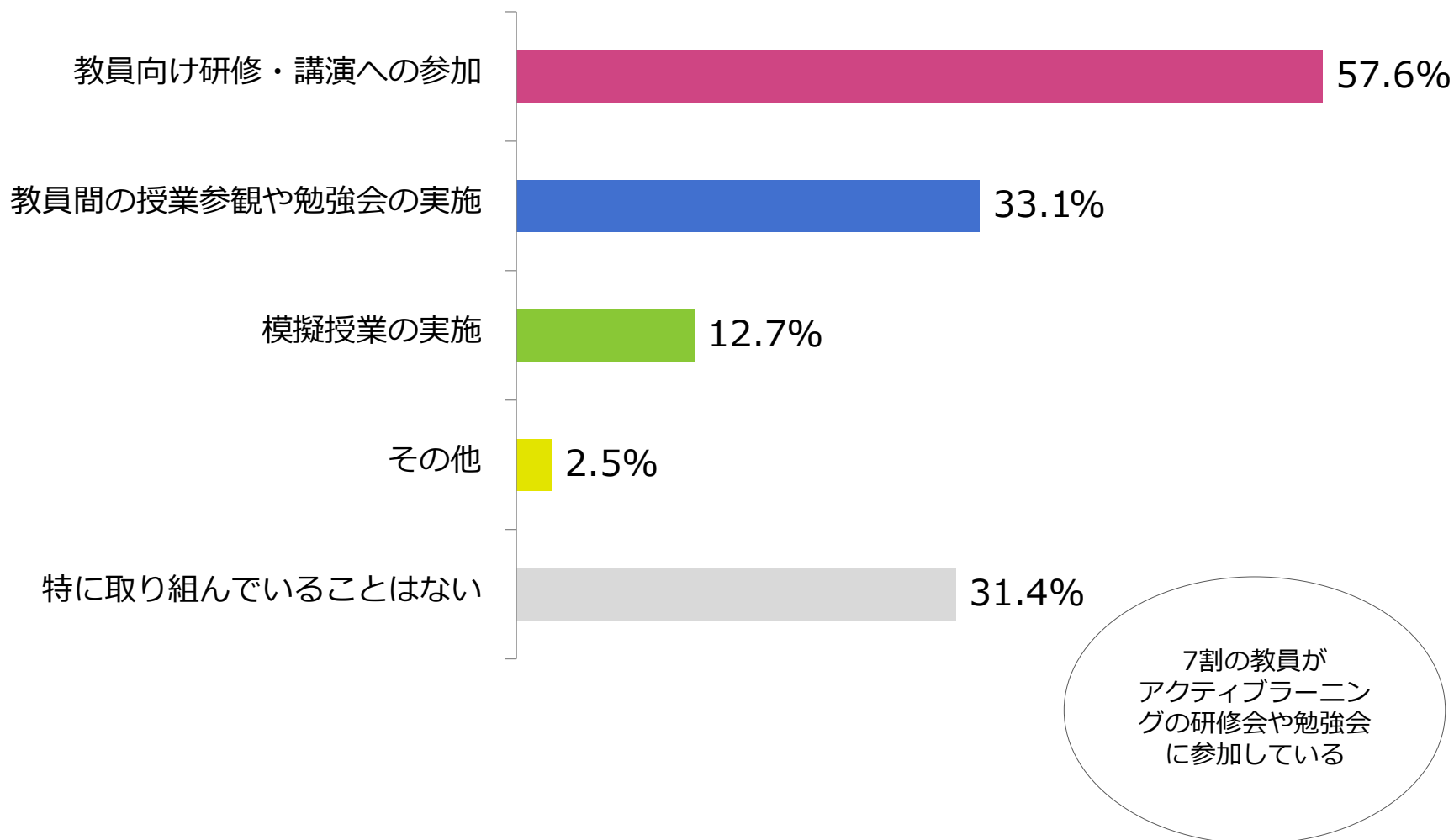
(N=118)

Q.アクティブラーニングを実施するための施設・設備や人員について、使用・導入しているものをお答えください。



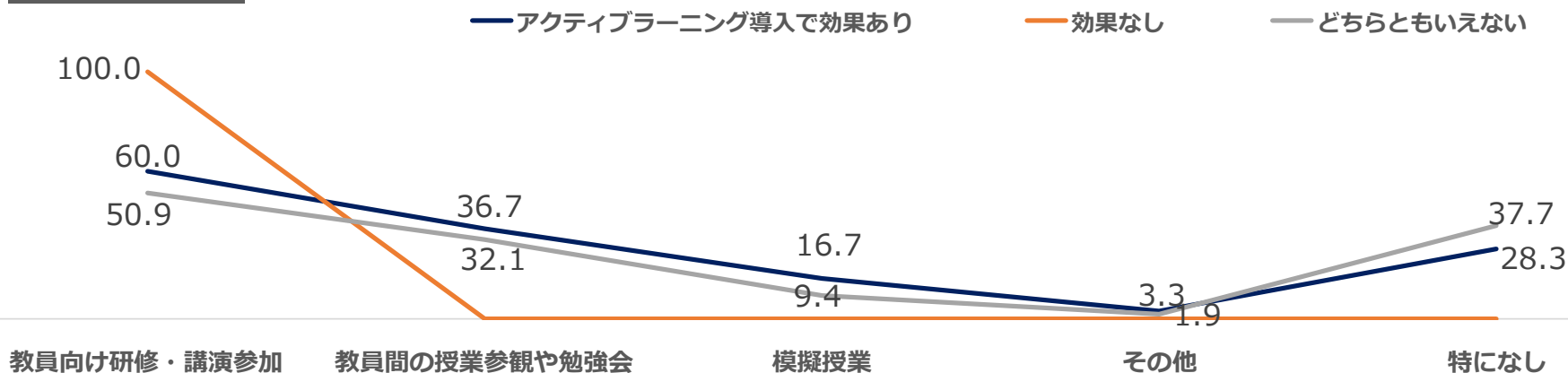
6. アクティブラーニング導入に際し行った教員の指導力向上の取り組み (N=118)

Q.アクティブラーニング導入にあたり、教員の指導力向上のための取り組みを実施していますか？
組織的に実施されているものがあればお答えください。(複数回答可)



6. アクティブラーニング導入に際し行った教員の指導力向上の取り組み (N=118)

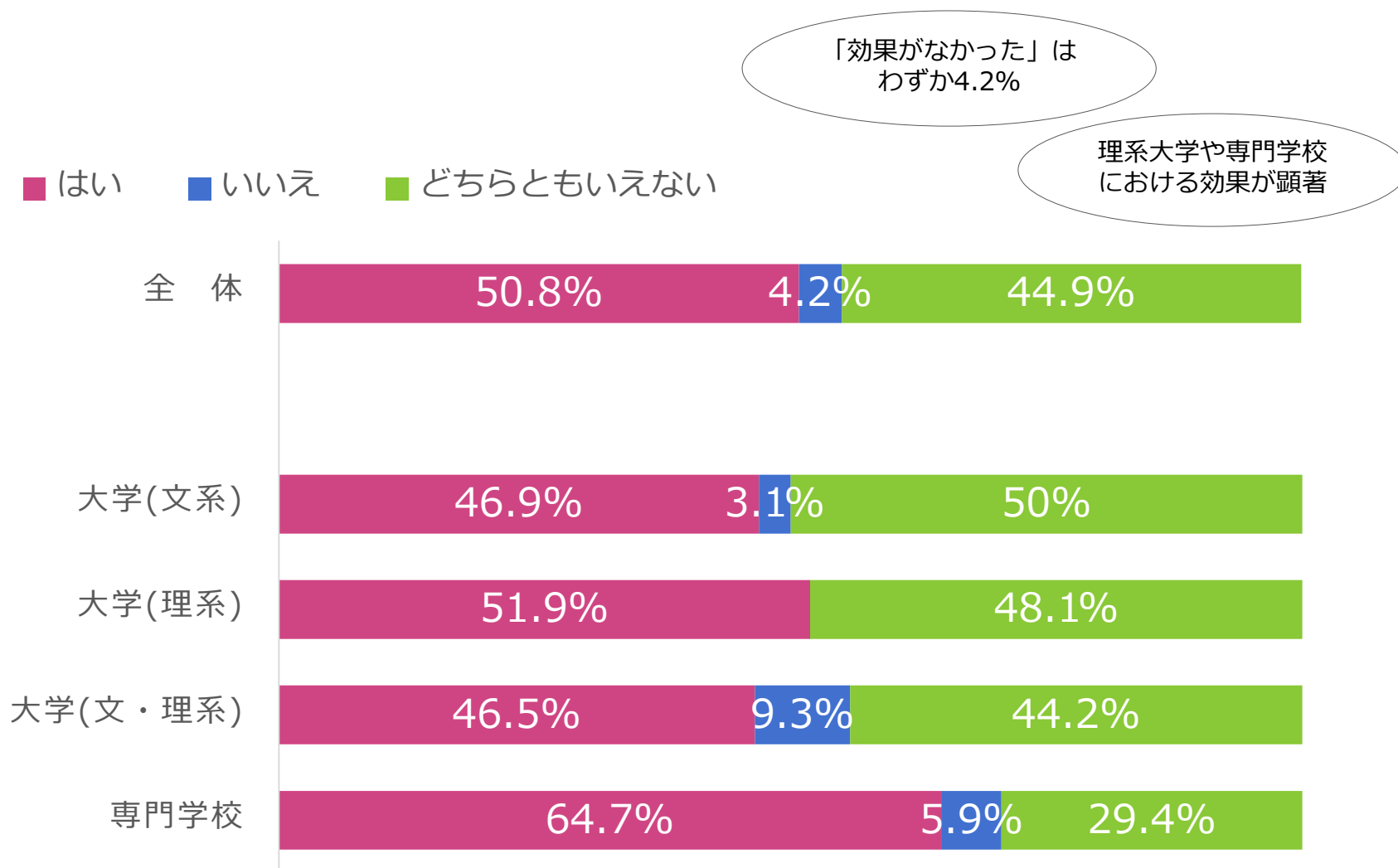
効果の有無別



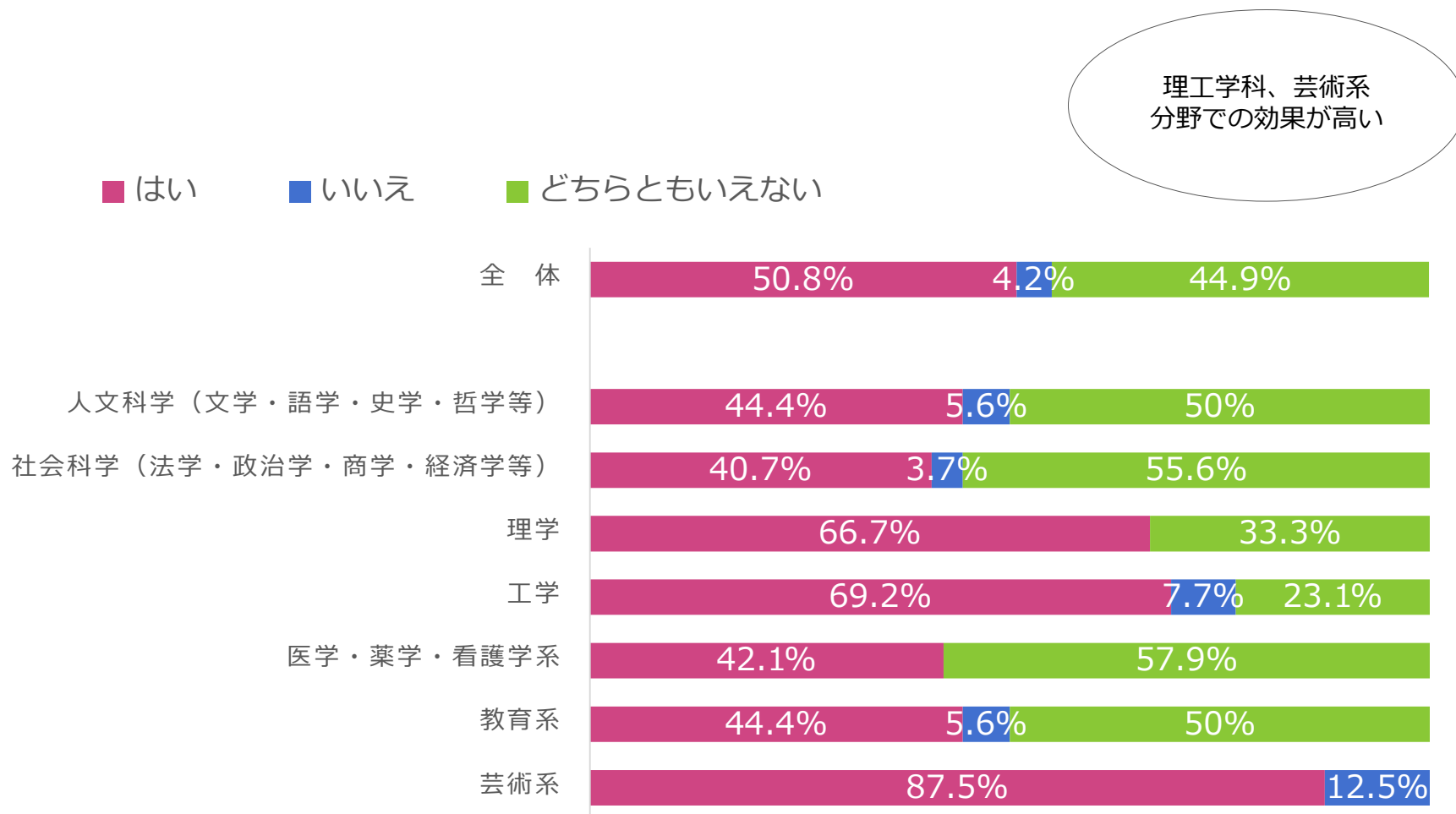
「アクティブラーニングは効果があった」と答えた教員の3人に2人は、複数の取り組みを行っている

7. 導入後、効果を実感したり授業・学生の良い変化を感じたか (N=118)

Q.導入後、アクティブラーニングによる効果や授業・学生の良い変化を感じましたか？



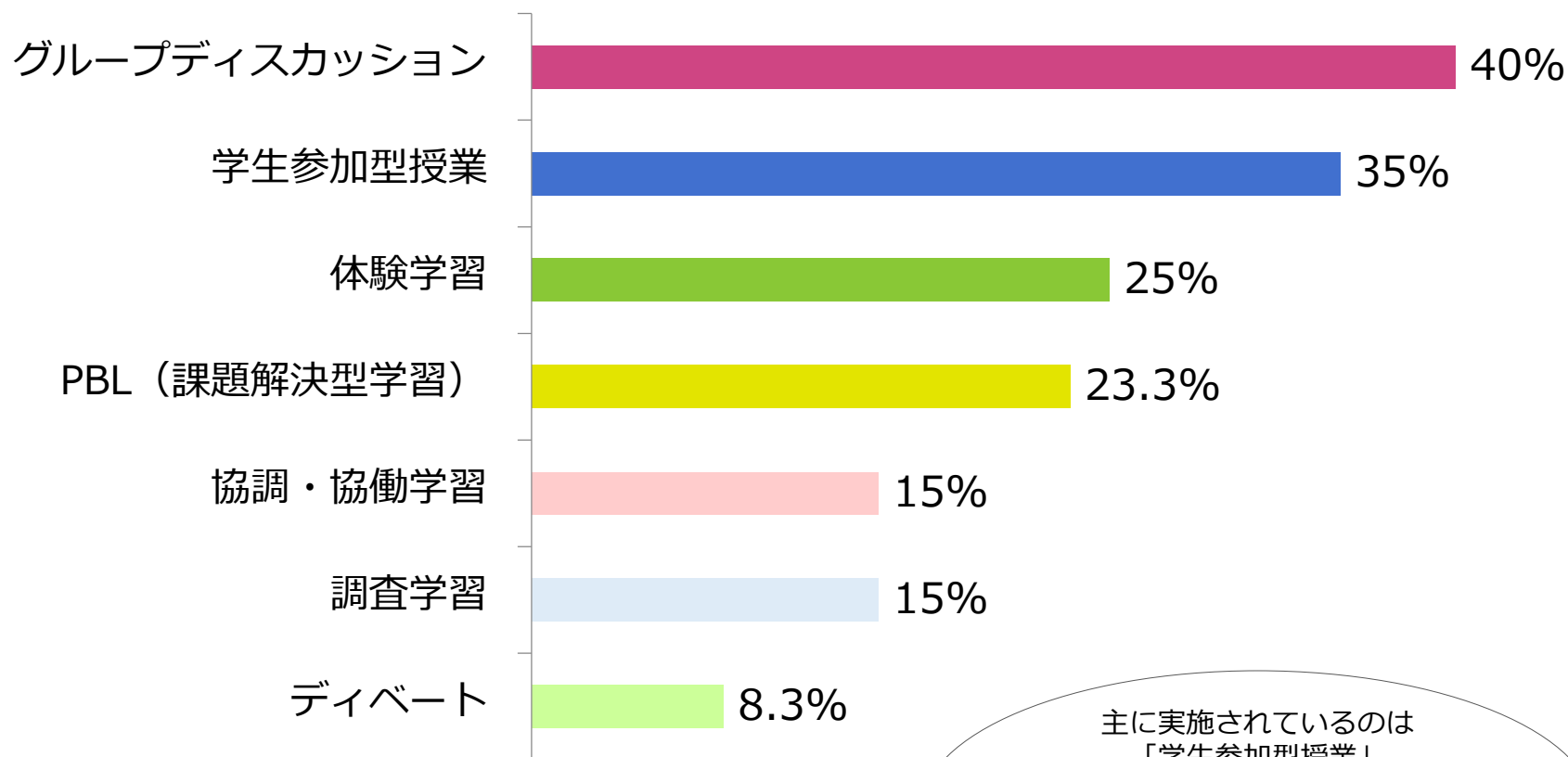
7. 導入後、効果を実感したり授業・学生の良い変化を感じたか (N=118)



8. 効果を感じたアクティブラーニングの手法

(N=60)

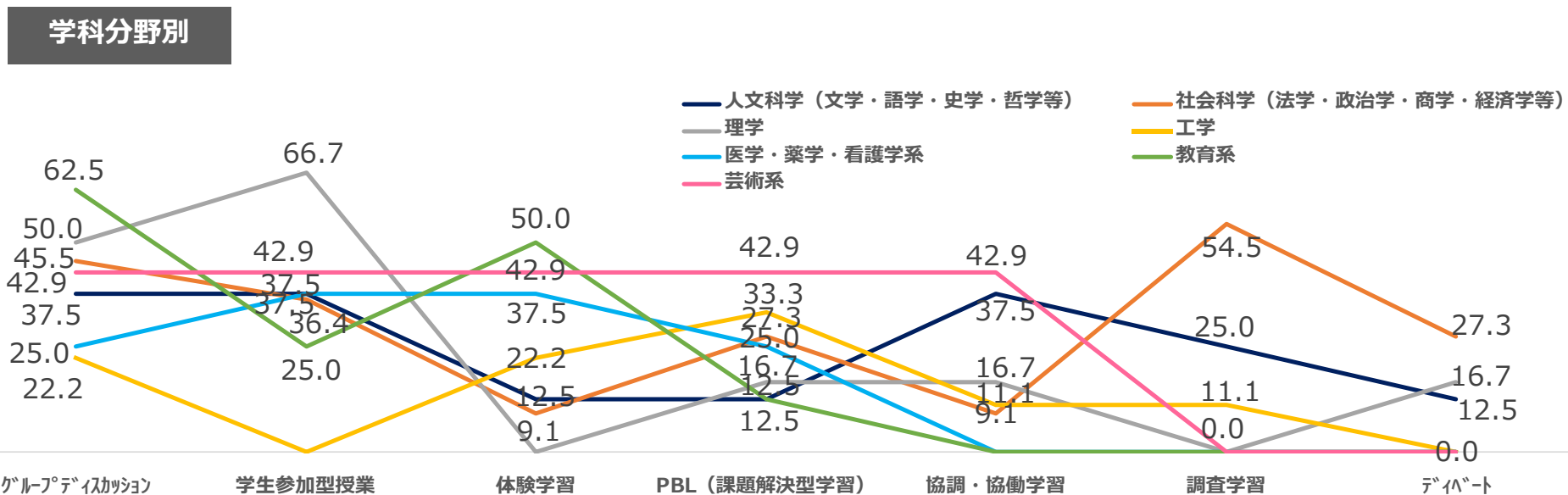
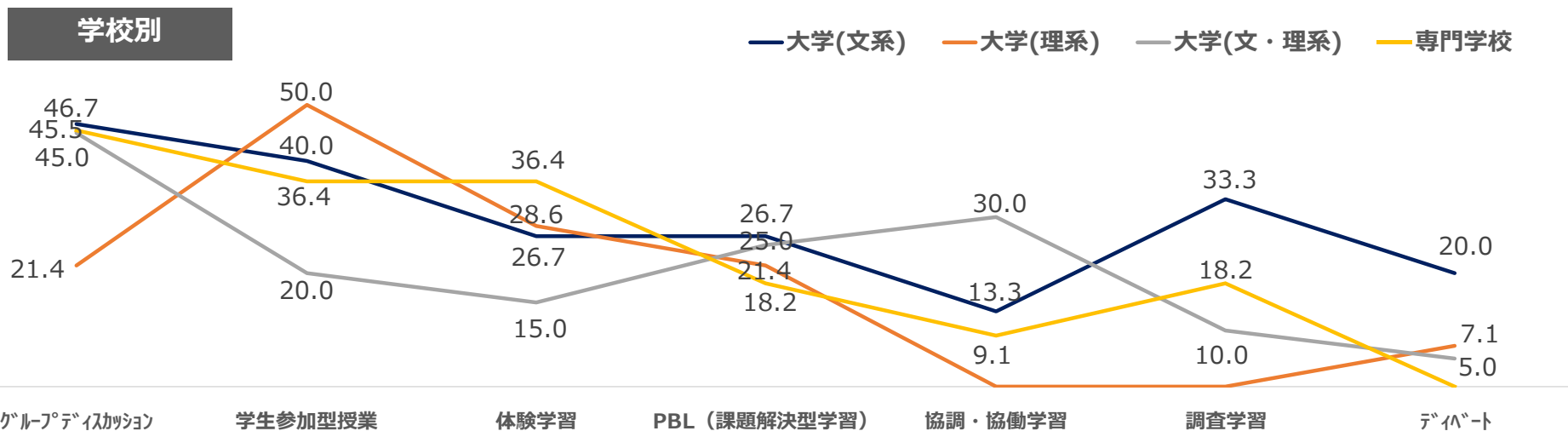
Q. 「はい」と答えた方にお聞きします。効果を感じたのはどのアクティブラーニングの手法ですか？
また、効果を感じた事例や内容を具体的に教えてください。



主に実施されているのは
「学生参加型授業」
「グループディスカッション」
「PBL(課題解決型学習)」だった
が効果を感じる手法は
順位が異なる

8. 効果を感じたアクティブラーニングの手法

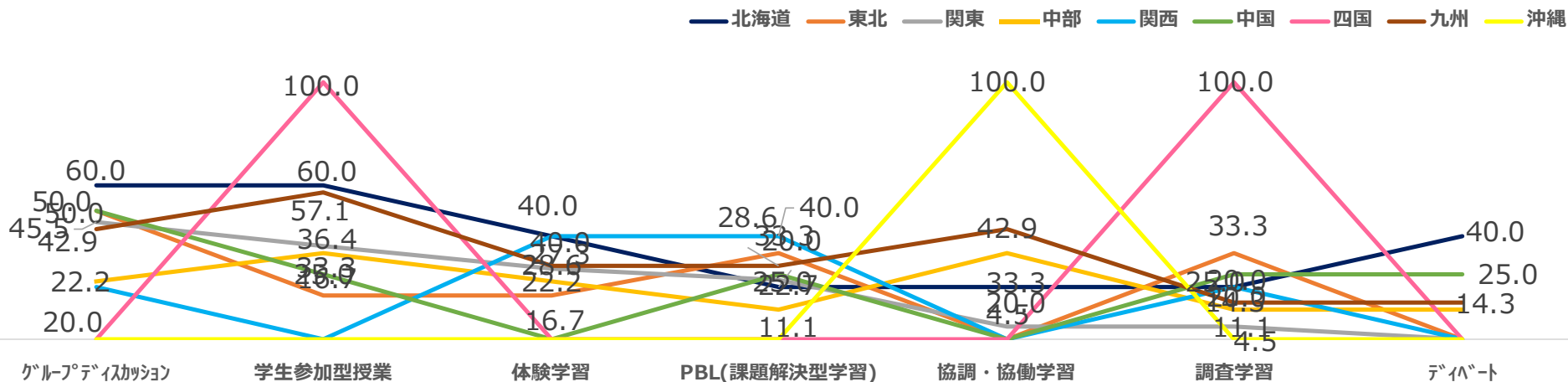
(N=60)



8. 効果を感じたアクティブラーニングの手法

(N=60)

地域別



学校、学科、地域によって効果的な手法が異なる

9. どんな効果があったか

(N=60)

【グループディスカッション】

効果を感じた事例・内容	回答者属性			
	性別	年齢	居住地域	職業
コミュニケーション能力の向上	男性	63歳	東京都	大学教員
参加者の意見をよく聞き、生産的な意見を発表する	男性	60歳	岩手県	大学教員
学生の学習意識レベルが向上し、積極的な質問事項が増加した	男性	61歳	埼玉県	大学教員
学生が自信をつけた。	女性	50歳	千葉県	大学教員
意見を述べることになれるようになる	男性	45歳	北海道	大学教員
他の学生の意見を参考にできる。	女性	68歳	愛知県	大学教員
積極的になる	女性	55歳	千葉県	大学教員
消極的な学生が減った。	男性	43歳	岡山県	大学教員
リーダー的な人材が見える	男性	61歳	東京都	大学教員
グループの中でファシリテーターを指定すると助け合って考えをまとめようとする	男性	45歳	福岡県	大学教員
授業に対して消極的だった学生が徐々に積極的に取り組むようになった。	男性	74歳	鹿児島県	大学教員
テーマ設定の仕方ディスカッションがどのように変わるかを考えられるようになった	女性	52歳	北海道	大学教員
グループごとの個別課題への取り組みと、発表までどの部分を担当するか決めていないことから、自ら全体を把握する形態をとったため	男性	51歳	千葉県	大学教員
KJ法を取り入れた結果、自分の考えを自分の言葉で表現する機会が格段に増えた。	男性	59歳	宮城県	専門学校教員

(アンケートから一部抜粋)

9. どんな効果があったか

(N=60)

【学生参加型授業】

効果を感じた事例・内容	回答者属性			
	性別	年齢	居住地域	職業
学習効果があがった	男性	53歳	静岡県	大学教員
知識の定着が良い	女性	55歳	千葉県	大学教員
授業後に振り返りをするので、復習になる。	女性	44歳	千葉県	大学教員
講義に集中するようになった	男性	56歳	東京都	大学教員
自主的な学習習慣がつく	男性	46歳	愛知県	大学教員
授業後のミニレポートの内容が回を重ねるごとに効果を感じられるようになった。	男性	74歳	鹿児島県	大学教員
コメントペーパーに寄せられた質問に答えたりフィードバックすることにより、学生がより主体的に問題意識を持つようになる	女性	51歳	東京都	大学教員
自分の意見が授業に反映されるのでやる気が出た	女性	37歳	長崎県	大学教員
レスポンスの公表による学生の再レスポンスの喚起	男性	60歳	岩手県	大学教員
学生の理解度がつかめる	男性	45歳	北海道	大学教員
学生自身が演習問題を出題	男性	47歳	北海道	大学教員
学生自ら模擬授業を行う	男性	60歳	北海道	専門学校教員
授業に主体的に取り組めるようになった	男性	42歳	香川県	専門学校教員

(アンケートから一部抜粋)

9. どんな効果があったか

(N=60)

【体験学習】

効果を感じた事例・内容	回答者属性			
	性別	年齢	居住地域	職業
社会への関心が高まった。	男性	52歳	埼玉県	大学教員
キャリア形成の上で、現実の職場に立つことは非常に有益	男性	45歳	北海道	大学教員
グループで短時間での判断を必要とする協議と行動	女性	28歳	東京都	大学教員
国連研修、ジェトロ（日本貿易振興機構）でのインターンシップ受入れ	男性	58歳	兵庫県	大学教員
プロ意識が身につく、アーリーイクスポージャー	男性	56歳	東京都	大学教員
積極的に活動に参加	女性	44歳	千葉県	大学教員
実際に子育てをしている人と接する	男性	60歳	北海道	専門学校教員
実技指導により授業の取り組みが向上	男性	60歳	千葉県	専門学校教員
自主的に考えて行動する計画する	女性	38歳	滋賀県	専門学校教員

(アンケートから一部抜粋)

9. どんな効果があったか

(N=60)

【PBL（課題解決型授業）】

効果を感じた事例・内容	回答者属性			
	性別	年齢	居住地域	職業
生徒が自発的にものを分析するようになった	男性	32歳	秋田県	大学教員
自分で課題設定できるため、やる気が出た	女性	37歳	長崎県	大学教員
学生が難しさを実感した。	女性	50歳	千葉県	大学教員
知識の定着が良い	女性	55歳	千葉県	大学教員
テーマを自身が設定することによるやる気の良さ	男性	32歳	三重県	大学教員
課題設定や解決に先立って、とにかく調べるよう指導	男性	56歳	山口県	大学教員
消費者ニーズと消費者行動分析を取り入れて民間企業とのコラボレーションを通じた学生 主導型商品開発	男性	58歳	兵庫県	大学教員
自発的	男性	43歳	山梨県	大学教員
議論、発表能力	男性	44歳	埼玉県	大学教員
知識の定着度合いがわかる	男性	61歳	東京都	大学教員
企業の問題点を解決	男性	60歳	岩手県	専門学校教員

(アンケートから一部抜粋)

9. どんな効果があったか

(N=60)

【協調・協働学習】

効果を感じた事例・内容	回答者属性			
	性別	年齢	居住地域	職業
協調性が向上した	男性	61歳	沖縄県	大学教員
主体性が出て来た	男性	55歳	岐阜県	大学教員
学生同士の話し合いの場があることで、理解の深化の手助けになる	男性	45歳	北海道	大学教員
学生同士がミニ実験を実施し、得られた成果を発表する	男性	45歳	山梨県	大学教員
グループに課題を与えるとみなそれぞれ頑張る	男性	45歳	福岡県	大学教員
企業や自治体からの依頼を業務として実施	男性	54歳	福井県	大学教員

(アンケートから一部抜粋)

9. どんな効果があったか

(N=60)

【調査学習】

効果を感じた事例・内容	回答者属性			
	性別	年齢	居住地域	職業
学生が自信をつけた。	女性	50歳	千葉県	大学教員
自ら問題意識をもち解決方法を探るようになる	男性	46歳	愛知県	大学教員
調査活動による新たな発見は、さまざまな意味で役立つ	男性	45歳	北海道	大学教員
仮説検証型の課題を与えると必要なデータを考えながら作業を行う	男性	45歳	福岡県	大学教員
写真とそれにたいする文章説明を用意させ、第三者に説明を聞かせた後に写真を見せ、ギャップをディスカッション。留学生向けのインタビューフローを班で作らせ実施、等等	男性	56歳	山口県	大学教員
主体的に活動しないと何事も始まらないので、積極性が出てきた。	男性	59歳	宮城県	専門学校教員
学生自身が問題意識を持つことができた	男性	42歳	香川県	専門学校教員

(アンケートから一部抜粋)

9. どんな効果があったか

(N=60)

【ディベート】

効果を感じた事例・内容	回答者属性			
	性別	年齢	居住地域	職業
自分とは異なる考え方で議論させることで幅広い考えをもつようになった。	女性	52歳	北海道	大学教員
自分とは異なる立場に立つことで理解の幅が広がる	男性	45歳	北海道	大学教員
積極的に参加するようになった	男性	53歳	静岡県	大学教員
勝ち負けを絡めると真剣度が違う	男性	45歳	福岡県	大学教員

(アンケートから一部抜粋)

10. 効果が出た要因として考えられるもの

(N=60)

効果が出た要因		回答者属性			
		性別	年齢	居住地域	職業
学生の主体性を引き出せた	学生の主体性を引き出すことができたから。	男性	46歳	愛知県	大学教員
	自主性が出て積極的に行動できるように少しはなつたと感じたので、それは受身ではなく自分からの行動が大事だと実感させたからだと思う	女性	38歳	滋賀県	専門学校教員
	学生の積極的な授業への参加	男性	63歳	東京都	大学教員
	授業が単調でなく、自分たちで作れるようになったこと。	女性	37歳	長崎県	大学教員
	学生の取り組む意識の変化	男性	53歳	静岡県	大学教員
	学生自らが行うことによって、受動的から能動的になったと感じる。	女性	44歳	千葉県	大学教員
	学生主導で進めていくことで、何事にも積極性がでてたくましく思える。	男性	52歳	埼玉県	大学教員
	学生の知りたいと言う潜在意識を無意識に呼び起こし、積極性が出たこと。	男性	61歳	埼玉県	大学教員
多様性を尊重し他者と協働する姿勢	一つの目標に向かって共助しながら問題を解決してゆく喜び	男性	61歳	沖縄県	大学教員
	他人の意見を理解し、考察する余裕を与える	男性	60歳	岩手県	大学教員
	他の人の様子を見て学べる	男性	48歳	千葉県	専門学校教員
	自分の理解度と他の人の理解度をその場でわかること。 教員の一方的な講義ではなく仲間で教えあう勉強体制	男性	56歳	東京都	大学教員
	唯一解を求めるといよりは、多様な解があり得るということを知ること、高校までの学びとは違うものを習得できたこと	男性	45歳	北海道	大学教員
	一方的な学習ではなく自分自身で考えること。 意見を出し合いながら学習することで、能力の低い学生も理解する機会が増える。 自分と異なる考えやアイデアを学ぶ。	女性	57歳	佐賀県	大学教員
	教え合い	男性	47歳	富山県	大学教員
	他人にわかりやすくまとめる力がつく	男性	37歳	宮城県	大学教員

10. 効果が出た要因として考えられるもの

(N=60)

効果が出た要因		回答者属性			
		性別	年齢	居住地域	職業
問題意識を持ち 考えさせる習慣	終了後に、何が良くて、何が問題だったのかを考えさせること。	女性	52歳	北海道	大学教員
	自分で調べることによって課題を他人ごとではなく、自分の問題としてとらえられるから。	男性	60歳	東京都	専門学校教員
	学生自らが問題意識を持ち、学ぶ意欲を持つことができるようになったので。	男性	42歳	香川県	専門学校教員
	学生が自分自身で考え、疑問に思ったことをただ質問するだけではなく、自ら調べてより深めようとするようになったこと	女性	51歳	東京都	大学教員
	自分たちで考えるようになった	男性	42歳	広島県	大学教員
	自分で考える習慣	男性	44歳	埼玉県	大学教員
	学生たちがそれなりに困ったこと。	女性	50歳	千葉県	大学教員
	与えられた問題が解けるだけではなく、自ら作題することでより深い理解が得られるから	男性	47歳	北海道	大学教員
実作業・実体験 による学び	座学と実際の現場の知識が一致したこと	男性	42歳	佐賀県	大学教員
	手で実際に問題に取り組むことが大事	女性	55歳	千葉県	大学教員
	座学を減らしたことにより、受け身の姿勢が改まったこと。	男性	59歳	宮城県	専門学校教員
	実工学体験	男性	55歳	東京都	大学教員
	学生が興味のある実験をやらせたこと。	男性	45歳	山梨県	大学教員
	実作業	男性	56歳	東京都	大学教員
	学生が楽しくやれる題材の提供	女性	37歳	東京都	大学教員
	グループディスカッションと作業によりやる気を感じられた。	男性	61歳	東京都	大学教員

10. 効果が出た要因として考えられるもの

(N=60)

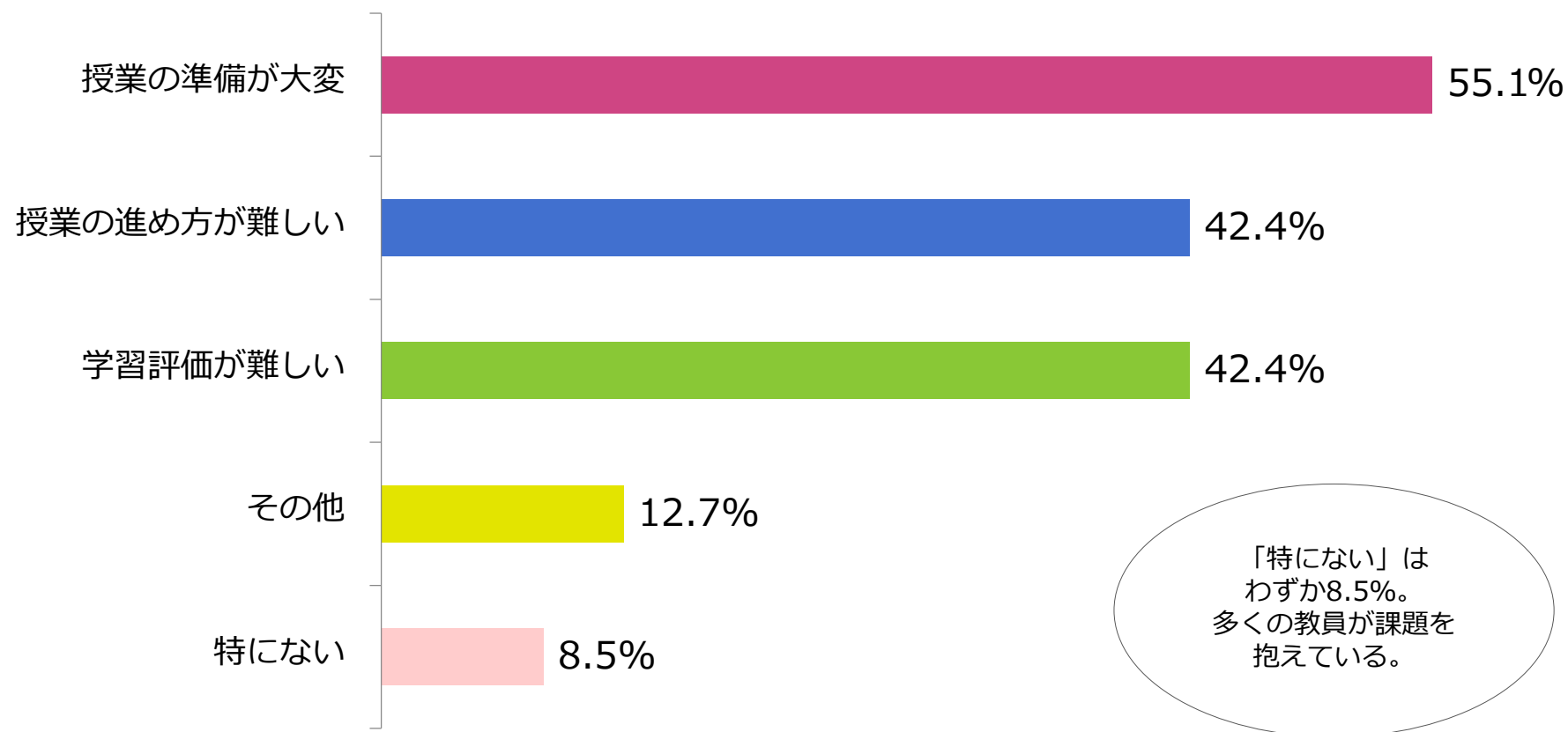
効果が出た要因		回答者属性			
		性別	年齢	居住地域	職業
発言させる	話す機会を作る	男性	58歳	群馬県	専門学校教員
	学生が意見を述べる	女性	58歳	長野県	大学教員
	プレゼンを人前でやるプレッシャー	男性	32歳	秋田県	大学教員
	普段あまり話さない学生が積極的に発言するなどの意外性があった	女性	36歳	神奈川県	大学教員
課題設定の仕方	テーマを設定することで課題への責任感が出る	男性	32歳	三重県	大学教員
	課題（アウトプット）を明確に指示したこと	男性	45歳	福岡県	大学教員
教員の意識転換	指導内容を受講者側のものとして学習させるようにする指導者側の意識を転換させたことだろう。	男性	74歳	鹿児島県	大学教員
	とにかく学生を信頼すること	男性	56歳	山口県	大学教員
	学生にすべてを任せて、教員はサポートと教育環境の準備に回ること。	男性	54歳	福井県	大学教員
	学生の参加の促し方の学び	男性	49歳	滋賀県	大学教員
その他	少人数で一人ずつの役割をしっかりと決めて行動させるやり方。	女性	28歳	東京都	大学教員
	学生のプロジェクト参加意欲が、企業や行政の担当者とのコミュニケーションを交互に繰り返すうちに段々と高まり、初期段階の反復学習効果から体験学習効果を経て提案力発揮へと短期間で高まったことに、良い結果が出た原因がある。	男性	58歳	兵庫県	大学教員
	企業関係者とは異なった視点での解決方法を提示できる可能性がある。	男性	60歳	岩手県	専門学校教員
	課題に関連するペーパー試験も課し、概ね把握できていることを実感したから	男性	51歳	千葉県	大学教員
	社会人基礎力がつき内定率アップにつながった	男性	69歳	熊本県	大学教員
	現代の学生の個人主義とプライドの高さを逆に利用したため。	男性	43歳	岡山県	大学教員

(アンケートから一部抜粋)

1 1. アクティブラーニングの課題

(N=118)

Q.アクティブラーニングを実施する上で課題は何ですか？(複数回答可)

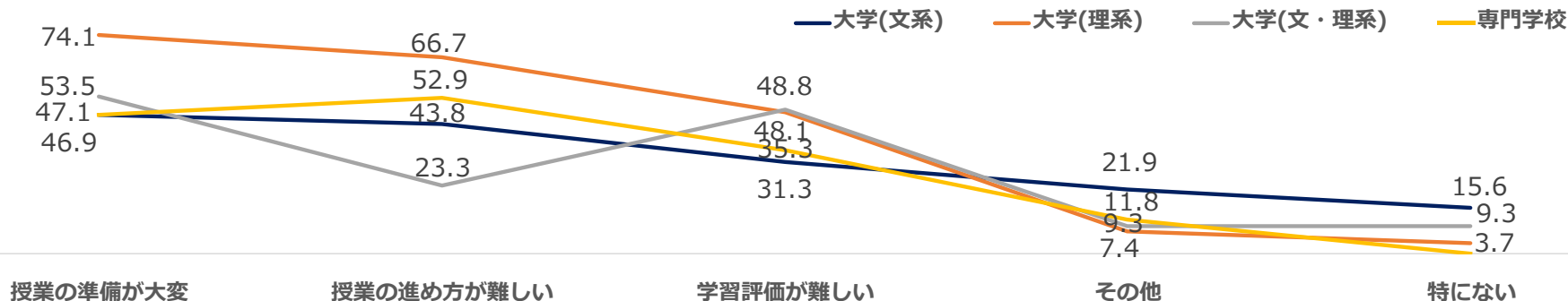


※その他……「教員の共通理解」「授業時間が足りなくなる」「教室中を回り続けるので高齢・妊娠中などの教員には厳しい」「履修生が多くリアルタイムのやり取りができない」「授業により向き不向きがある」「座学に使える時間が減る」「大人数では公平性を保つのが困難」「あまり参加しない学生をどうするか」「学科横断型では学生の能力の差が激しいのでターゲットを絞りにくい」等

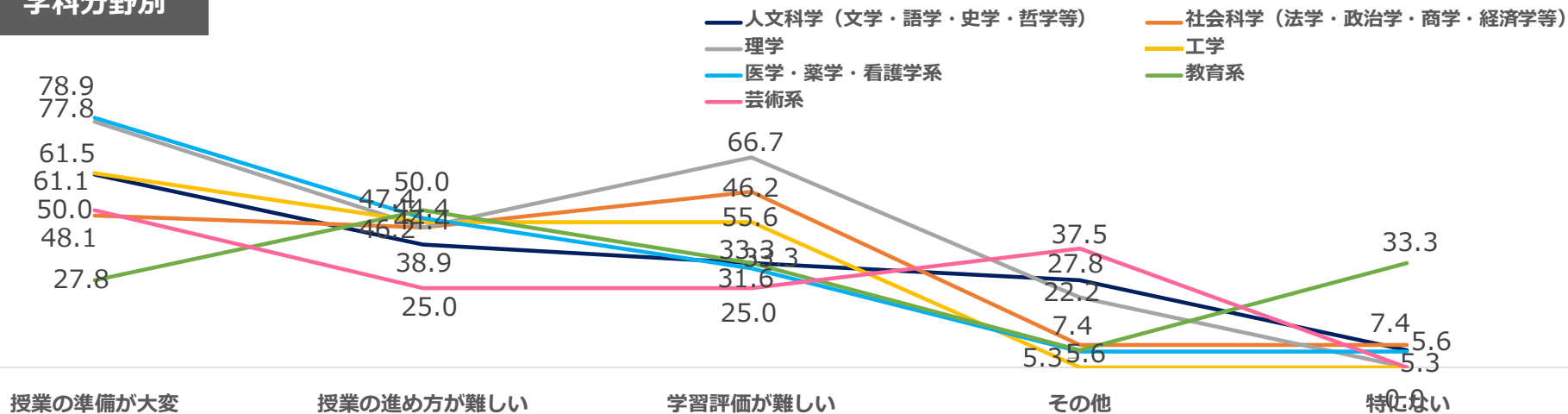
1 1. アクティブラーニングの課題

(N=118)

学校別



学科分野別

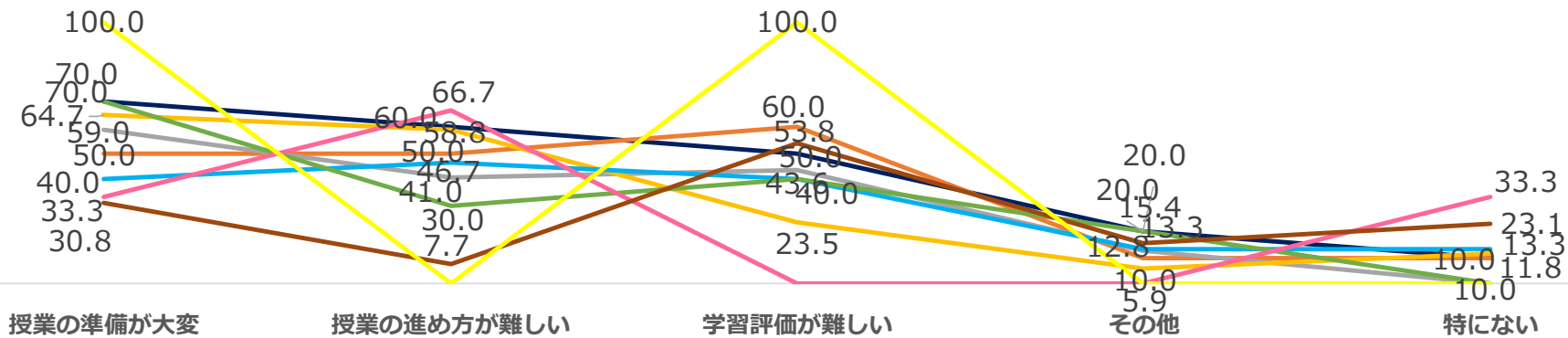


1 1. アクティブラーニングの課題

(N=118)

地域別

—北海道 —東北 —関東 —中部 —関西 —中国 —四国 —九州 —沖縄



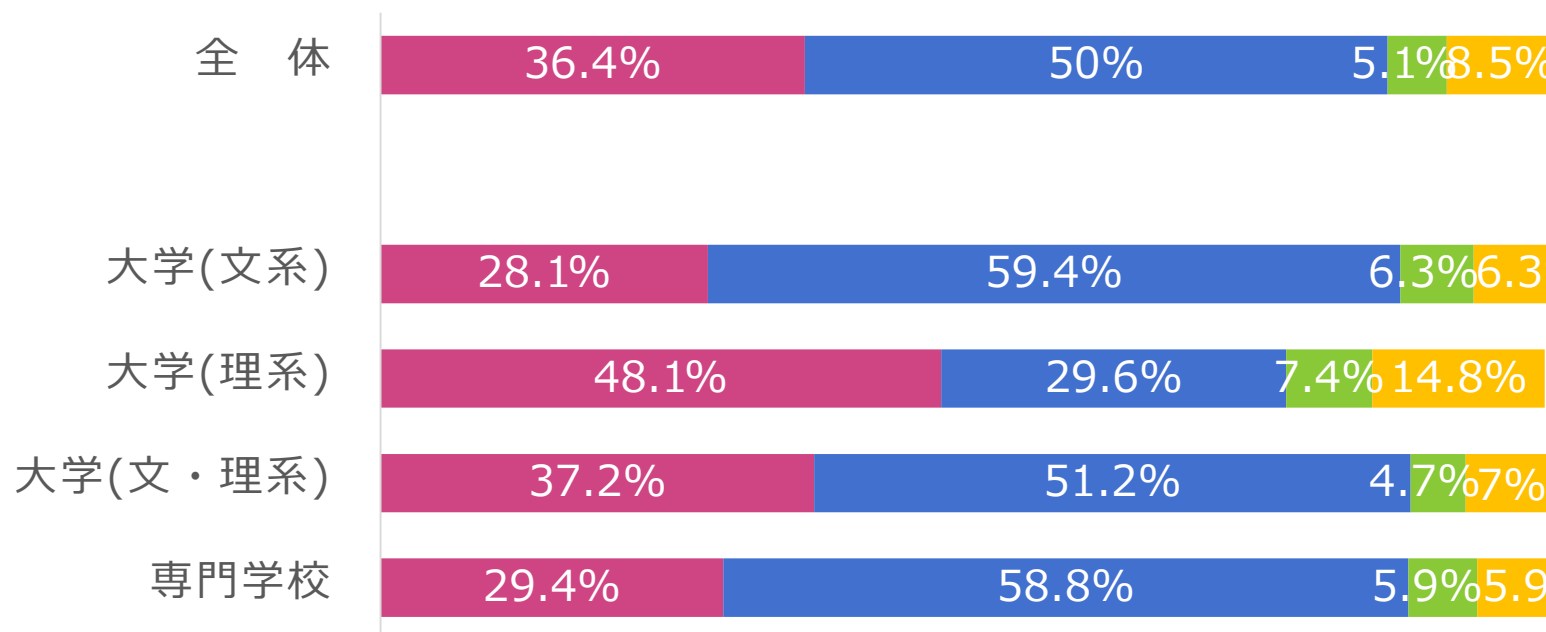
1 2. 今後のアクティブラーニングの実施方針

(N=118)

Q.今後のアクティブラーニングの個人的な実施方針として近いものはどれですか？

- より高いアクティブラーニングの手法を身に着け活用していきたい
- これまでと同様に積極的に実施していきたい
- アクティブラーニングの実施は控えたい
- 従来の授業スタイルに戻したい

9割が
アクティブラーニング
の活用を意欲的。
とくに理系大学教員の
意欲が高い。



クロス表 【学校別】

1. アクティブラーニングの導入範囲

		全 体	全 校 的 に 導 入 さ れ て い る	部 局 や 教 員 に よ っ て 異 な る が 多 く の 授 業 で 導 入 さ れ て い る	導 入 は 限 定 的 で 少 な い
全 体		118 100.0	19 16.1	60 50.8	39 33.1
学 校 別	大学(文系)	32 100.0	8 25.0	17 53.1	7 21.9
	大学(理系)	27 100.0	3 11.1	11 40.7	13 48.1
	大学(文・理系)	43 100.0	6 14.0	23 53.5	14 32.6
	専門学校	17 100.0	2 11.8	10 58.8	5 29.4

2. 主に導入しているアクティブラーニングの手法

		全 体	学 生 参 加 型 授 業	グ ル ー プ デ ィ ス カ ッ シ ヨ ン	課 題 解 決 型 学 習	P B L	協 調 ・ 協 働 学 習	体 験 学 習	調 査 学 習	デ ィ ベ ー ト
全 体		118 100.0	72 61.0	57 48.3	35 29.7	32 27.1	32 27.1	28 23.7	17 14.4	
学 校 別	大学(文系)	32 100.0	21 65.6	18 56.3	9 28.1	10 31.3	6 18.8	9 28.1	6 18.8	
	大学(理系)	27 100.0	17 63.0	7 25.9	11 40.7	4 14.8	8 29.6	4 14.8	2 7.4	
	大学(文・理系)	43 100.0	26 60.5	25 58.1	13 30.2	14 32.6	11 25.6	13 30.2	8 18.6	
	専門学校	17 100.0	8 47.1	7 41.2	2 11.8	4 23.5	7 41.2	2 11.8	1 5.9	

4. アクティブラーニングの導入目的

		全 体	授 業 参 加 能 動 的 ・ 積 極 的 な	知 識 の 定 着 ・ 確 認	社 会 人 基 礎 力 の 習 得
全 体		118 100.0	100 84.7	65 55.1	43 36.4
学 校 別	大学(文系)	32 100.0	29 90.6	15 46.9	11 34.4
	大学(理系)	27 100.0	21 77.8	17 63.0	7 25.9
	大学(文・理系)	43 100.0	35 81.4	26 60.5	20 46.5
	専門学校	17 100.0	15 88.2	8 47.1	5 29.4

5. アクティブラーニング実施で使用・導入した施設・設備

	全 体	パ ソ コ ン や タ ブ レ ッ ト 端 末	視 聴 用 の 教 室 ・ シ ョ ウ ス ペ ー ス 映 像	無 線 L A N な ど の 設 備	し ア ク テ ィ ブ ラ ー サ ポ ー ト 教 員	L M S や e ラ ー ニ ン グ	ク リ ッ カ ー	そ の 他	い 特 に 導 入 し て い る も の は な
全 体	118 100.0	69 58.5	55 46.6	33 28.0	17 14.4	13 11.0	8 6.8	6 5.1	21 17.8
学 校 別	大学(文系)	32 100.0	19 59.4	16 50.0	11 34.4	3 9.4	4 12.5	- 6.3	7 21.9
	大学(理系)	27 100.0	15 55.6	13 48.1	9 33.3	7 25.9	4 14.8	4 14.8	2 7.4
	大学(文・理系)	43 100.0	25 58.1	24 55.8	11 25.6	5 11.6	5 11.6	4 9.3	1 2.3
	専門学校	17 100.0	11 64.7	2 11.8	2 11.8	3 17.6	- -	- -	1 5.9

6. アクティブラーニング導入に際し行った教員の指導力向上の取り組み

		全 体	講 教 演 員 へ 向 の け 参 研 加 修 ・	施 観 教 や 員 勉 間 強 の 会 授 の 業 実 参	模 擬 授 業 の 実 施	そ の 他	い 特 る に こ 取 と り は 組 な ん い で
全 体		118 100.0	68 57.6	39 33.1	15 12.7	3 2.5	37 31.4
学 校 別	大学(文系)	32 100.0	17 53.1	11 34.4	4 12.5	1 3.1	11 34.4
	大学(理系)	27 100.0	17 63.0	8 29.6	1 3.7	1 3.7	8 29.6
	大学(文・理系)	43 100.0	25 58.1	15 34.9	7 16.3	1 2.3	13 30.2
	専門学校	17 100.0	10 58.8	5 29.4	3 17.6	- -	5 29.4

7. 導入後、効果を実感したり授業・学生の良い変化を感じたか

		全 体	は い	い い え	な ど い ち ら と も い え
全 体		118 100.0	60 50.8	5 4.2	53 44.9
学 校 別	大学(文系)	32 100.0	15 46.9	1 3.1	16 50.0
	大学(理系)	27 100.0	14 51.9	- -	13 48.1
	大学(文・理系)	43 100.0	20 46.5	4 9.3	19 44.2
	専門学校	17 100.0	11 64.7	1 5.9	5 29.4

8. 効果を感じたアクティブラーニングの手法

		全 体	グ ル ー プ デ ィ ス カ ッ シ ヨ ン	学 生 参 加 型 授 業	体 験 学 習	課 題 解 決 型 学 習	P B L	協 調 ・ 協 働 学 習	調 査 学 習	デ ィ ベ ー ト
全 体		60 100.0	24 40.0	21 35.0	15 25.0	14 23.3	9 15.0	9 15.0	9 15.0	5 8.3
学 校 別	大学(文系)	15 100.0	7 46.7	6 40.0	4 26.7	4 26.7	2 13.3	5 33.3	3 20.0	
	大学(理系)	14 100.0	3 21.4	7 50.0	4 28.6	3 21.4	- -	- -	1 7.1	
	大学(文・理系)	20 100.0	9 45.0	4 20.0	3 15.0	5 25.0	6 30.0	2 10.0	1 5.0	
	専門学校	11 100.0	5 45.5	4 36.4	4 36.4	2 18.2	1 9.1	2 18.2	- -	

1 1. アクティブラーニングの課題

		全 体	変 授 業 の 準 備 が 大	難 授 業 の 進 め 方 が	い 学 習 評 価 が 難 し	そ の 他	特 に な い
全 体		118 100.0	65 55.1	50 42.4	50 42.4	15 12.7	10 8.5
学 校 別	大学(文系)	32 100.0	15 46.9	14 43.8	10 31.3	7 21.9	5 15.6
	大学(理系)	27 100.0	20 74.1	18 66.7	13 48.1	2 7.4	1 3.7
	大学(文・理系)	43 100.0	23 53.5	10 23.3	21 48.8	4 9.3	4 9.3
	専門学校	17 100.0	8 47.1	9 52.9	6 35.3	2 11.8	- -

12. 今後のアクティブラーニングの実施方針

		全 体	活 用 し て い き た い に 着 け	二 り 高 い ア ク テ ィ ブ ラ	よ り 高 い ア ク テ ィ ブ ラ	に こ れ ま で と 同 様 に 積 極 的	実 施 は 控 え たい	ア ク テ ィ ブ ラ ー ニ ン グ の	し た い の 授 業 ス タ イル に 戻
全 体		118 100.0	43 36.4	59 50.0	6 5.1	10 8.5			
学 校 別	大学(文系)	32 100.0	9 28.1	19 59.4	2 6.3	2 6.3			
	大学(理系)	27 100.0	13 48.1	8 29.6	2 7.4	4 14.8			
	大学(文・理系)	43 100.0	16 37.2	22 51.2	2 4.7	3 7.0			
	専門学校	17 100.0	5 29.4	10 58.8	1 5.9	1 5.9			

クロス表 【学科分野別】

1. アクティブラーニングの導入範囲

		全 体	い る 全 校 的 に 導 入 さ れ て	で 異 部 局 や 教 員 に よ っ て 授 業	い 導 入 は 限 定 的 で 少 な
全 体		118 100.0	19 16.1	60 50.8	39 33.1
教 科 分 野 別	人文科学	18 100.0	2 11.1	10 55.6	6 33.3
	社会科学	27 100.0	3 11.1	18 66.7	6 22.2
	理学	9 100.0	- -	2 22.2	7 77.8
	工学	13 100.0	- -	6 46.2	7 53.8
	医学・薬学・看護学系	19 100.0	6 31.6	7 36.8	6 31.6
	教育系	18 100.0	4 22.2	9 50.0	5 27.8
	芸術系	8 100.0	3 37.5	4 50.0	1 12.5
	その他	6 100.0	1 16.7	4 66.7	1 16.7

2. 主に導入しているアクティブラーニングの手法

		全 体	学 生 参 加 型 授 業	グ ル ー プ デ ィ ス カ ッ シ ョ ン	課 題 解 決 型 学 習	P B L	協 調 ・ 協 働 学 習	体 験 学 習	調 査 学 習	デ ィ ベ ー ト
全 体		118 100.0	72 61.0	57 48.3	35 29.7		32 27.1	32 27.1	28 23.7	17 14.4
教 科 分 野 別	人文科学	18 100.0	11 61.1	8 44.4	2 11.1		7 38.9	3 16.7	5 27.8	2 11.1
	社会科学	27 100.0	19 70.4	18 66.7	7 25.9		9 33.3	5 18.5	9 33.3	10 37.0
	理学	9 100.0	7 77.8	4 44.4	3 33.3		3 33.3	2 22.2	2 22.2	2 22.2
	工学	13 100.0	3 23.1	2 15.4	4 30.8		1 7.7	2 15.4	1 7.7	- -
	医学・薬学・看護学系	19 100.0	11 57.9	9 47.4	10 52.6		6 31.6	8 42.1	5 26.3	2 10.5
	教育系	18 100.0	11 61.1	10 55.6	5 27.8		3 16.7	7 38.9	4 22.2	- -
	芸術系	8 100.0	6 75.0	5 62.5	4 50.0		3 37.5	4 50.0	1 12.5	1 12.5
	その他	6 100.0	4 66.7	1 16.7	- -		- -	1 16.7	1 16.7	- -

4. アクティブラーニングの導入目的

		全 体	授 業 参 加 ・ 能 動 的 ・ 積 極 的 な	確 認 知 識 の 定 着 ・	習 得 社 会 人 基 礎 力 の	そ の 他
全 体		118 100.0	100 84.7	65 55.1	43 36.4	5 4.2
教 科 分 野 別	人文科学	18 100.0	14 77.8	10 55.6	5 27.8	1 5.6
	社会科学	27 100.0	26 96.3	11 40.7	14 51.9	- -
	理学	9 100.0	7 77.8	8 88.9	2 22.2	2 22.2
	工学	13 100.0	10 76.9	7 53.8	4 30.8	- -
	医学・薬学・看護学系	19 100.0	15 78.9	13 68.4	3 15.8	2 10.5
	教育系	18 100.0	15 83.3	7 38.9	8 44.4	- -
	芸術系	8 100.0	7 87.5	5 62.5	5 62.5	- -
	その他	6 100.0	6 100.0	4 66.7	2 33.3	- -

5. アクティブラーニング実施で使用・導入した施設・設備

	全 体	未 パ ソ コ ン ヤ タ ブ レ ッ ト 端	ク リ ッ カ ー	ス 像 ブ レ ゼ ン テ ー シ ョ ン ペ ー 映	無 線 L A N な ど の 設 備	L M S や e ラ ー ニ ン グ	ポ ー ト 教 員	詳 しい 専 門 の 教 職 員 や サ に	そ の 他	な い 特 に 導 入 し て い る も の は
全 体	118 100.0	69 58.5	8 6.8	55 46.6	33 28.0	13 11.0	17 14.4	6 5.1	21 17.8	
教 科 分 野 別	人文科学	18 100.0	7 38.9	- -	9 50.0	4 22.2	1 5.6	1 5.6	- -	6 33.3
	社会科学	27 100.0	18 66.7	2 7.4	14 51.9	10 37.0	5 18.5	2 7.4	2 7.4	4 14.8
	理学	9 100.0	8 88.9	1 11.1	4 44.4	7 77.8	- -	- -	1 11.1	1 11.1
	工学	13 100.0	11 84.6	- -	5 38.5	4 30.8	3 23.1	3 23.1	- -	- -
	医学・薬学・看護学系	19 100.0	10 52.6	4 21.1	12 63.2	5 26.3	3 15.8	8 42.1	2 10.5	- -
	教育系	18 100.0	6 33.3	- -	4 22.2	1 5.6	1 5.6	1 5.6	1 5.6	8 44.4
	芸術系	8 100.0	5 62.5	1 12.5	5 62.5	1 12.5	- -	2 25.0	- -	1 12.5
	その他	6 100.0	4 66.7	- -	2 33.3	1 16.7	- -	- -	- -	1 16.7

6. アクティブラーニング導入に際し行った教員の指導力向上の取り組み

		全 体	演 教 員 へ の 向 け 参 加 研 修 ・ 講	や 教 員 間 の 授 業 参 観	模 擬 授 業 の 実 施	そ の 他	る 特 こ に と 取 り 組 み な い ん で い
全 体		118 100.0	68 57.6	39 33.1	15 12.7	3 2.5	37 31.4
教 科 分 野 別	人文科学	18 100.0	11 61.1	4 22.2	2 11.1	- -	6 33.3
	社会科学	27 100.0	16 59.3	8 29.6	3 11.1	1 3.7	9 33.3
	理学	9 100.0	6 66.7	5 55.6	1 11.1	- -	1 11.1
	工学	13 100.0	8 61.5	6 46.2	- -	- -	3 23.1
	医学・薬学・看護学系	19 100.0	13 68.4	6 31.6	2 10.5	1 5.3	4 21.1
	教育系	18 100.0	9 50.0	5 27.8	5 27.8	- -	7 38.9
	芸術系	8 100.0	4 50.0	5 62.5	1 12.5	1 12.5	2 25.0
	その他	6 100.0	1 16.7	- -	1 16.7	- -	5 83.3

7. 導入後、効果を実感したり授業・学生の良い変化を感じたか

		全 体	は い	い い え	な ど い ち ら と も い え
全 体		118 100.0	60 50.8	5 4.2	53 44.9
教 科 分 野 別	人文科学	18 100.0	8 44.4	1 5.6	9 50.0
	社会科学	27 100.0	11 40.7	1 3.7	15 55.6
	理学	9 100.0	6 66.7	- -	3 33.3
	工学	13 100.0	9 69.2	1 7.7	3 23.1
	医学・薬学・看護学系	19 100.0	8 42.1	- -	11 57.9
	教育系	18 100.0	8 44.4	1 5.6	9 50.0
	芸術系	8 100.0	7 87.5	1 12.5	- -
	その他	6 100.0	3 50.0	- -	3 50.0

8. 効果を感じたアクティブラーニングの手法

		全 体	グ ル ー プ デ ィ ス カ ッ シ ヨ ン	学 生 参 加 型 授 業	体 験 学 習	課 題 解 決 型 学 習	P B L	協 調 ・ 協 働 学 習	調 査 学 習	デ ィ ベ ー ト
全 体		60 100.0	24 40.0	21 35.0	15 25.0	14 23.3	9 15.0	9 15.0	5 8.3	
教 科 分 野 別	人文科学	8 100.0	3 37.5	3 37.5	1 12.5	1 12.5	3 37.5	2 25.0	1 12.5	
	社会科学	11 100.0	5 45.5	4 36.4	1 9.1	3 27.3	1 9.1	6 54.5	3 27.3	
	理学	6 100.0	3 50.0	4 66.7	-	1 16.7	1 16.7	-	1 16.7	
	工学	9 100.0	2 22.2	-	2 22.2	3 33.3	1 11.1	1 11.1	-	
	医学・薬学・看護学系	8 100.0	2 25.0	3 37.5	3 37.5	2 25.0	-	-	-	
	教育系	8 100.0	5 62.5	2 25.0	4 50.0	1 12.5	-	-	-	
	芸術系	7 100.0	3 42.9	3 42.9	3 42.9	3 42.9	3 42.9	-	-	
	その他	3 100.0	1 33.3	2 66.7	1 33.3	-	-	-	-	

1 1. アクティブラーニングの課題

		全 体	授 業 の 準 備 が 大 変	授 業 の 進 め 方 が 難 し い	学 習 評 価 が 難 し い	そ の 他	特 に な い
全 体		118 100.0	65 55.1	50 42.4	50 42.4	15 12.7	10 8.5
教 科 分 野 別	人文科学	18 100.0	11 61.1	7 38.9	6 33.3	5 27.8	1 5.6
	社会科学	27 100.0	13 48.1	12 44.4	15 55.6	2 7.4	2 7.4
	理学	9 100.0	7 77.8	4 44.4	6 66.7	2 22.2	- -
	工学	13 100.0	8 61.5	6 46.2	6 46.2	- -	- -
	医学・薬学・看護学系	19 100.0	15 78.9	9 47.4	6 31.6	1 5.3	1 5.3
	教育系	18 100.0	5 27.8	9 50.0	6 33.3	1 5.6	6 33.3
	芸術系	8 100.0	4 50.0	2 25.0	2 25.0	3 37.5	- -
	その他	6 100.0	2 33.3	1 16.7	3 50.0	1 16.7	- -

12. 今後のアクティブラーニングの実施方針

	全 体	い 着 け 活 用 し て い き た	ら り 二 高 い ク テ ィ ブ 身	的 こ れ ま で と 同 様 に 積 い	の ア ク テ ィ ブ ラ ー ニ ン グ	戻 来 の 授 業 ス タ ィ ル に
全 体	118 100.0	43 36.4	59 50.0	6 5.1	10 8.5	
教 科 分 野 別	人文科学	18 100.0	7 38.9	9 50.0	1 5.6	1 5.6
	社会科学	27 100.0	6 22.2	17 63.0	1 3.7	3 11.1
	理学	9 100.0	2 22.2	6 66.7	- -	1 11.1
	工学	13 100.0	5 38.5	7 53.8	1 7.7	- -
	医学・薬学・看護学系	19 100.0	11 57.9	6 31.6	1 5.3	1 5.3
	教育系	18 100.0	5 27.8	8 44.4	1 5.6	4 22.2
	芸術系	8 100.0	3 37.5	4 50.0	1 12.5	- -
	その他	6 100.0	4 66.7	2 33.3	- -	- -

クロス表 【地域別】

1. アクティブラーニングの導入範囲

	全 体	れ全 て校 的 に 導 入 さ	入多よ部 さくっ局 れのてや て授異教 い業な員 るでるに 導が	少導 ないは い限 定 的 で	
全 体	118 100.0	19 16.1	60 50.8	39 33.1	
地 域 別	北海道	10 100.0	1 10.0	4 40.0	5 50.0
	東北	10 100.0	1 10.0	5 50.0	4 40.0
	関東	39 100.0	5 12.8	20 51.3	14 35.9
	中部	17 100.0	2 11.8	9 52.9	6 35.3
	関西	15 100.0	3 20.0	8 53.3	4 26.7
	中国	10 100.0	1 10.0	7 70.0	2 20.0
	四国	3 100.0	1 33.3	1 33.3	1 33.3
	九州	13 100.0	5 38.5	6 46.2	2 15.4
	沖縄	1 100.0	- -	- -	1 100.0

2. 主に導入しているアクティブラーニングの手法

		全 体	学 生 参 加 型 授 業	カ ッ シ ョ ン デ ィ ス	課 題 解 決 型 学 習	P B L	協 調 ・ 協 働 学 習	体 験 学 習	調 査 学 習	デ ィ ベ ー ト
全 体		118 100.0	72 61.0	57 48.3	35 29.7	32 27.1	32 27.1	28 23.7	17 14.4	
地 域 別	北海道	10 100.0	10 100.0	6 60.0	4 40.0	3 30.0	4 40.0	3 30.0	2 20.0	
	東北	10 100.0	4 40.0	5 50.0	3 30.0	1 10.0	2 20.0	3 30.0	- -	
	関東	39 100.0	23 59.0	19 48.7	10 25.6	7 17.9	8 20.5	5 12.8	5 12.8	
	中部	17 100.0	12 70.6	8 47.1	5 29.4	7 41.2	6 35.3	8 47.1	3 17.6	
	関西	15 100.0	5 33.3	6 40.0	4 26.7	4 26.7	5 33.3	3 20.0	4 26.7	
	中国	10 100.0	7 70.0	5 50.0	4 40.0	4 40.0	1 10.0	1 10.0	1 10.0	
	四国	3 100.0	2 66.7	1 33.3	1 33.3	- -	1 33.3	1 33.3	1 33.3	
	九州	13 100.0	9 69.2	7 53.8	4 30.8	5 38.5	5 38.5	3 23.1	1 7.7	
	沖縄	1 100.0	- -	- -	- -	- -	1 100.0	- -	1 100.0	- -

4. アクティブラーニングの導入目的

		全 体	的能 な動 授的 業・ 参加 積極	確知 認識 の定 着・	の社 習会 得人 基礎 力	そ の 他
全 体		118 100.0	100 84.7	65 55.1	43 36.4	5 4.2
地 域 別	北海道	10 100.0	8 80.0	9 90.0	3 30.0	1 10.0
	東北	10 100.0	8 80.0	5 50.0	6 60.0	- -
	関東	39 100.0	34 87.2	24 61.5	12 30.8	1 2.6
	中部	17 100.0	14 82.4	7 41.2	7 41.2	- -
	関西	15 100.0	11 73.3	5 33.3	3 20.0	2 13.3
	中国	10 100.0	10 100.0	7 70.0	3 30.0	1 10.0
	四国	3 100.0	3 100.0	1 33.3	1 33.3	- -
	九州	13 100.0	12 92.3	7 53.8	7 53.8	- -
	沖縄	1 100.0	- -	- -	1 100.0	- -

5. アクティブラーニング実施で使用・導入した施設・設備

	全 体	レ ッ ト 端 未 タ ブ	パ ソ コ ン ピ ュー タ の	教 室 ・ 映 像 ペ リ ス の	プ レ ゼ ン テ シ ョ ン	無 線 L A N な ど の	ア ク テ ィ ブ ラ ー ニ ン グ サ イ ト 教 員	L M S や ラ ー ニ ン グ	ク リ ッ カ ー	そ の 他	も の は な い し て い る
全 体	118 100.0	69 58.5	55 46.6	33 28.0	17 14.4	13 11.0	8 6.8	6 5.1	21 17.8		
地 域 別	北海道	10 100.0	2 20.0	4 40.0	1 10.0	- -	- -	- -	- -	- -	4 40.0
	東北	10 100.0	10 100.0	3 30.0	- -	- -	2 20.0	1 10.0	1 10.0	1 10.0	- -
	関東	39 100.0	24 61.5	20 51.3	9 23.1	8 20.5	2 5.1	1 2.6	2 5.1	2 5.1	6 15.4
	中部	17 100.0	9 52.9	9 52.9	6 35.3	2 11.8	4 23.5	3 17.6	- -	- -	3 17.6
	関西	15 100.0	9 60.0	7 46.7	6 40.0	4 26.7	4 26.7	3 20.0	2 13.3	2 13.3	4 26.7
	中国	10 100.0	7 70.0	5 50.0	7 70.0	1 10.0	- -	- -	- -	- -	1 10.0
	四国	3 100.0	2 66.7	1 33.3	1 33.3	1 33.3	- -	- -	- -	- -	- -
	九州	13 100.0	5 38.5	6 46.2	2 15.4	1 7.7	1 7.7	- -	1 7.7	1 7.7	3 23.1
	沖縄	1 100.0	1 100.0	- -	1 100.0	- -	- -	- -	- -	- -	- -

6. アクティブラーニング導入に際し行った教員の指導力向上の取り組み

		全 体	講 演 員 へ の 参 加 修 ・	施 観 教 や 員 勉 間 の 授 業 の 実 参	模 擬 授 業 の 実 施	そ の 他	い 特 る に こ と り は 組 ん だ い
全 体		118 100.0	68 57.6	39 33.1	15 12.7	3 2.5	37 31.4
地 域 別	北海道	10 100.0	7 70.0	6 60.0	3 30.0	- -	1 10.0
	東北	10 100.0	6 60.0	4 40.0	1 10.0	- -	3 30.0
	関東	39 100.0	20 51.3	12 30.8	3 7.7	- -	15 38.5
	中部	17 100.0	10 58.8	3 17.6	1 5.9	1 5.9	6 35.3
	関西	15 100.0	10 66.7	5 33.3	3 20.0	1 6.7	4 26.7
	中国	10 100.0	5 50.0	4 40.0	1 10.0	- -	2 20.0
	四国	3 100.0	3 100.0	2 66.7	1 33.3	- -	- -
	九州	13 100.0	6 46.2	3 23.1	1 7.7	1 7.7	6 46.2
	沖縄	1 100.0	1 100.0	- -	1 100.0	- -	- -

7. 導入後、効果を実感したり授業・学生の良い変化を感じたか

		全 体	は い	い い え	い ど え ち な ら い と も
全 体		118 100.0	60 50.8	5 4.2	53 44.9
地 域 別	北海道	10 100.0	5 50.0	1 10.0	4 40.0
	東北	10 100.0	6 60.0	- -	4 40.0
	関東	39 100.0	22 56.4	1 2.6	16 41.0
	中部	17 100.0	9 52.9	1 5.9	7 41.2
	関西	15 100.0	5 33.3	1 6.7	9 60.0
	中国	10 100.0	4 40.0	- -	6 60.0
	四国	3 100.0	1 33.3	- -	2 66.7
	九州	13 100.0	7 53.8	1 7.7	5 38.5
	沖縄	1 100.0	1 100.0	- -	- -

8. 効果を感じたアクティブラーニングの手法

		全 体	グ ル ー プ デ ィ ス カ ッ シ ヨ ン	学 生 参 加 型 授 業	体 験 学 習	課 題 解 決 型 学 習	P B L	協 調 ・ 協 働 学 習	調 査 学 習	デ ィ ベ ー ト	そ の 他
全 体		60 100.0	24 40.0	21 35.0	15 25.0	14 23.3	9 15.0	9 15.0	5 8.3	4 6.7	
地 域 別	北海道	5 100.0	3 60.0	3 60.0	2 40.0	1 20.0	1 20.0	1 20.0	2 40.0	- -	
	東北	6 100.0	3 50.0	1 16.7	1 16.7	2 33.3	- -	2 33.3	- -	- -	
	関東	22 100.0	10 45.5	8 36.4	6 27.3	5 22.7	1 4.5	1 4.5	- -	1 4.5	
	中部	9 100.0	2 22.2	3 33.3	2 22.2	1 11.1	3 33.3	1 11.1	1 11.1	1 11.1	
	関西	5 100.0	1 20.0	- -	2 40.0	2 40.0	- -	1 20.0	- -	1 20.0	
	中国	4 100.0	2 50.0	1 25.0	- -	1 25.0	- -	1 25.0	1 25.0	1 25.0	
	四国	1 100.0	- -	1 100.0	- -	- -	- -	1 100.0	- -	- -	
	九州	7 100.0	3 42.9	4 57.1	2 28.6	2 28.6	3 42.9	1 14.3	1 14.3	- -	
	沖縄	1 100.0	- -	- -	- -	- -	- -	1 100.0	- -	- -	

1 1. アクティブラーニングの課題

		全 体	授 業 の 準 備 が 大 変	授 業 の 進 め 方 が 難 し い	学 習 評 価 が 難 し い	そ の 他	特 に な い
全 体		118 100.0	65 55.1	50 42.4	50 42.4	15 12.7	10 8.5
地 域 別	北海道	10 100.0	7 70.0	6 60.0	5 50.0	2 20.0	1 10.0
	東北	10 100.0	5 50.0	5 50.0	6 60.0	1 10.0	1 10.0
	関東	39 100.0	23 59.0	16 41.0	17 43.6	5 12.8	- -
	中部	17 100.0	11 64.7	10 58.8	4 23.5	1 5.9	2 11.8
	関西	15 100.0	6 40.0	7 46.7	6 40.0	2 13.3	2 13.3
	中国	10 100.0	7 70.0	3 30.0	4 40.0	2 20.0	- -
	四国	3 100.0	1 33.3	2 66.7	- -	- -	1 33.3
	九州	13 100.0	4 30.8	1 7.7	7 53.8	2 15.4	3 23.1
	沖縄	1 100.0	1 100.0	- -	1 100.0	- -	- -

12. 今後のアクティブラーニングの実施方針

		全 体	い に 着 け 活 用 し て い き た	ら よ り 高 い ク テ ィ を 身	的 こ れ ま で と 同 様 に 積 極	の ア ク テ ィ ブ ラ ー ニ ン グ	戻 来 の 授 業 ス タ イ ル に
全 体		118 100.0	43 36.4	59 50.0	6 5.1	10 8.5	
地 域 別	北海道	10 100.0	4 40.0	4 40.0	1 10.0	1 10.0	
	東北	10 100.0	4 40.0	4 40.0	1 10.0	1 10.0	
	関東	39 100.0	15 38.5	21 53.8	3 7.7	- -	
	中部	17 100.0	7 41.2	7 41.2	- -	3 17.6	
	関西	15 100.0	6 40.0	6 40.0	1 6.7	2 13.3	
	中国	10 100.0	3 30.0	7 70.0	- -	- -	
	四国	3 100.0	- -	3 100.0	- -	- -	
	九州	13 100.0	3 23.1	7 53.8	- -	3 23.1	
	沖縄	1 100.0	1 100.0	- -	- -	- -	

クロス表 【効果の有無別】

1. アクティブラーニングの導入範囲

		全 体	全 校 的 に 導 入 さ れ て い る	れ る 部 局 や 教 員 に よ っ て 異 な さ る が 多 く の 授 業 で 導 入 さ れ て い る	導 入 は 限 定 的 で 少 な い
全 体		118 100.0	19 16.1	60 50.8	39 33.1
有 効 無 果 別 の	はい	60 100.0	11 18.3	28 46.7	21 35.0
	いいえ	5 100.0	1 20.0	3 60.0	1 20.0
	どちらともいえない	53 100.0	7 13.2	29 54.7	17 32.1

2. 主に導入しているアクティブラーニングの手法

		全 体	学 生 参 加 型 授 業	グ ル ー プ デ ィ ス カ ッ シ ヨ ン	課 題 解 決 型 学 習	P B L	協 調 ・ 協 働 学 習	体 験 学 習	調 査 学 習	デ ィ ベ ー ト
全 体		118 100.0	72 61.0	57 48.3	35 29.7	32 27.1	32 27.1	28 23.7	17 14.4	
有 効 無 果 別 の	はい	60 100.0	33 55.0	32 53.3	21 35.0	15 25.0	24 40.0	18 30.0	8 13.3	
	いいえ	5 100.0	2 40.0	3 60.0	- -	1 20.0	- -	1 20.0	- -	
	どちらともいえない	53 100.0	37 69.8	22 41.5	14 26.4	16 30.2	8 15.1	9 17.0	9 17.0	

4. アクティブラーニングの実施目的

		全 体	能 動 的 ・ 積 極 的 な 授 業 参 加	知 識 の 定 着 ・ 確 認	社 会 人 基 礎 力 の 習 得	そ の 他
全 体		118 100.0	100 84.7	65 55.1	43 36.4	5 4.2
有 効 無 果 別 の	はい	60 100.0	52 86.7	35 58.3	27 45.0	1 1.7
	いいえ	5 100.0	2 40.0	4 80.0	1 20.0	- -
	どちらともいえない	53 100.0	46 86.8	26 49.1	15 28.3	4 7.5

5. アクティブラーニング実施で使用・導入した施設・設備

	全 体	パ ソ コ ン ヤ タ ブ レ ッ ト 端 末	視 聴 用 の 教 室 ・ シ ョ ン ペ ー ス 映 像	無 線 L A N な ど の 設 備	ト シ イ 専 門 の 教 職 員 や サ ポ ー ト	ア ク テ ィ ブ ラ ー ニ ン グ に 詳	L M S や e ラ ー ニ ン グ	ク リ ッ カ ー	そ の 他	い 特 に 導 入 し て い る も の は な
全 体	118 100.0	69 58.5	55 46.6	33 28.0	17 14.4	13 11.0	8 6.8	6 5.1	21 17.8	
有 効 無 果 別 の	はい	60 100.0	37 61.7	30 50.0	16 26.7	9 15.0	5 8.3	4 6.7	5 8.3	9 15.0
	いいえ	5 100.0	4 80.0	- -	- -	1 20.0	- -	- -	- -	1 20.0
	どちらともいえない	53 100.0	28 52.8	25 47.2	17 32.1	7 13.2	8 15.1	4 7.5	1 1.9	11 20.8

6. アクティブラーニング導入に際し行った教員の指導力向上の取り組み

		全 体	の 教 参 員 加 向 け 研 修 ・ 講 演 へ	強 教 会 員 の 間 実 の 施 授 業 参 観 や 勉	模 擬 授 業 の 実 施	そ の 他	と 特 は に な い 取 り 組 ん で い る こ
全 体		118 100.0	68 57.6	39 33.1	15 12.7	3 2.5	37 31.4
有 効 無 果 別 の	はい	60 100.0	36 60.0	22 36.7	10 16.7	2 3.3	17 28.3
	いいえ	5 100.0	5 100.0	- -	- -	- -	- -
	どちらともいえない	53 100.0	27 50.9	17 32.1	5 9.4	1 1.9	20 37.7

1 1. アクティブラーニングの課題

		全 体	授 業 の 進 め 方 が 難 し い	授 業 の 準 備 が 大 変	学 習 評 価 が 難 し い	そ の 他	特 に な い
全 体		118 100.0	50 42.4	65 55.1	50 42.4	15 12.7	10 8.5
有 効 無 果 別 の	はい	60 100.0	23 38.3	37 61.7	24 40.0	10 16.7	3 5.0
	いいえ	5 100.0	2 40.0	3 60.0	2 40.0	- -	1 20.0
	どちらともいえない	53 100.0	25 47.2	25 47.2	24 45.3	5 9.4	6 11.3

12. 今後のアクティブラーニングの実施方針

		活 用 し て い き た い	二 ン グ の 手 法 を 身 に 着 け	よ り 高 い ア ク テ ィ ブ ラ ー ン グ	こ れ ま で と 同 様 に 積 極 的	実 施 は 控 え たい	ア ク テ ィ ブ ラ ー ン グ の	従 来 の 授 業 ス タ イ ル に 戻
全 体	118 100.0	43 36.4	59 50.0	6 5.1	10 8.5			
有 効 無 果 別 の	はい	60 100.0	26 43.3	32 53.3	- -	2 3.3		
	いいえ	5 100.0	1 20.0	1 20.0	2 40.0	1 20.0		
	どちらともいえない	53 100.0	16 30.2	26 49.1	4 7.5	7 13.2		

大学・専門学校におけるアクティブラーニング実施に関する調査報告書

デジタル・ナレッジ 調査

検索

2017年3月発行

発行：株式会社デジタル・ナレッジ「eラーニング戦略研究所」
〒110-0005 東京都台東区上野5丁目3番4号 eラーニング・ラボ 秋葉原

Tel. 03-5846-2131 / Fax. 03-5846-2132

(禁無断転載・転用・複写)

eラーニング戦略研究所
eLearning Strategy Research Institute

株式会社デジタル・ナレッジ <https://www.digital-knowledge.co.jp/>